

**700/900MHz帯移動通信システムに関する
STLとの干渉検討について**

2010年9月29日

ソフトバンクモバイル株式会社

干渉調査の進め方

1. 干渉調査の範囲

干渉調査は、700/900 MHz 帯移動通信システムとして提案があった携帯電話については、LTEのパラメータを用いることで、不要輻射レベルが同等または低い既存3Gシステム、及びWiMAX (H-FDD・TDD) を包含する。また700/900 MHz 帯移動通信システムの中継を行う無線局(小電力レピータ及び陸上移動中継局)を含め実施することとする。

2. 干渉調査の対象

干渉調査は、700/900MHz帯移動通信システムと近接した周波数(10MHz以内)に存在する無線システムとの間で行うこととする。ただし、TV放送(テレビ受信、ブースター受信)については、携帯電話、WiMAX (H-FDD又はTDD)の無線設備とより稠密な配置が予想されること、また、700/900 MHz 帯移動通信システムが地上アナログテレビジョン放送用周波数の跡地を利用することに照らし、10 MHz 超であっても干渉調査を行うこととする。

干渉調査の具体的進め方

- 前記1及び2に基づき、考えられるすべての組合せを洗い出す。
- 過去の調査結果を適用することなどにより新たな計算を省略できるもの、また、同一 又は類似した組合せであるため、再度の計算を省略できると判断されるものは省略する。
- 上り(↑)、下り(↓)が存在する無線システムとの間については、干渉の程度がより大きくなる↑, ↓方向が反転する組合せとなる干渉について行う。
- 過去の情報通信審議会での調査で用いたパラメータを利用する。

干渉調査に使用するパラメータ

STL側干渉調査パラメータ例（送信側）

STLの送信側パラメータ例

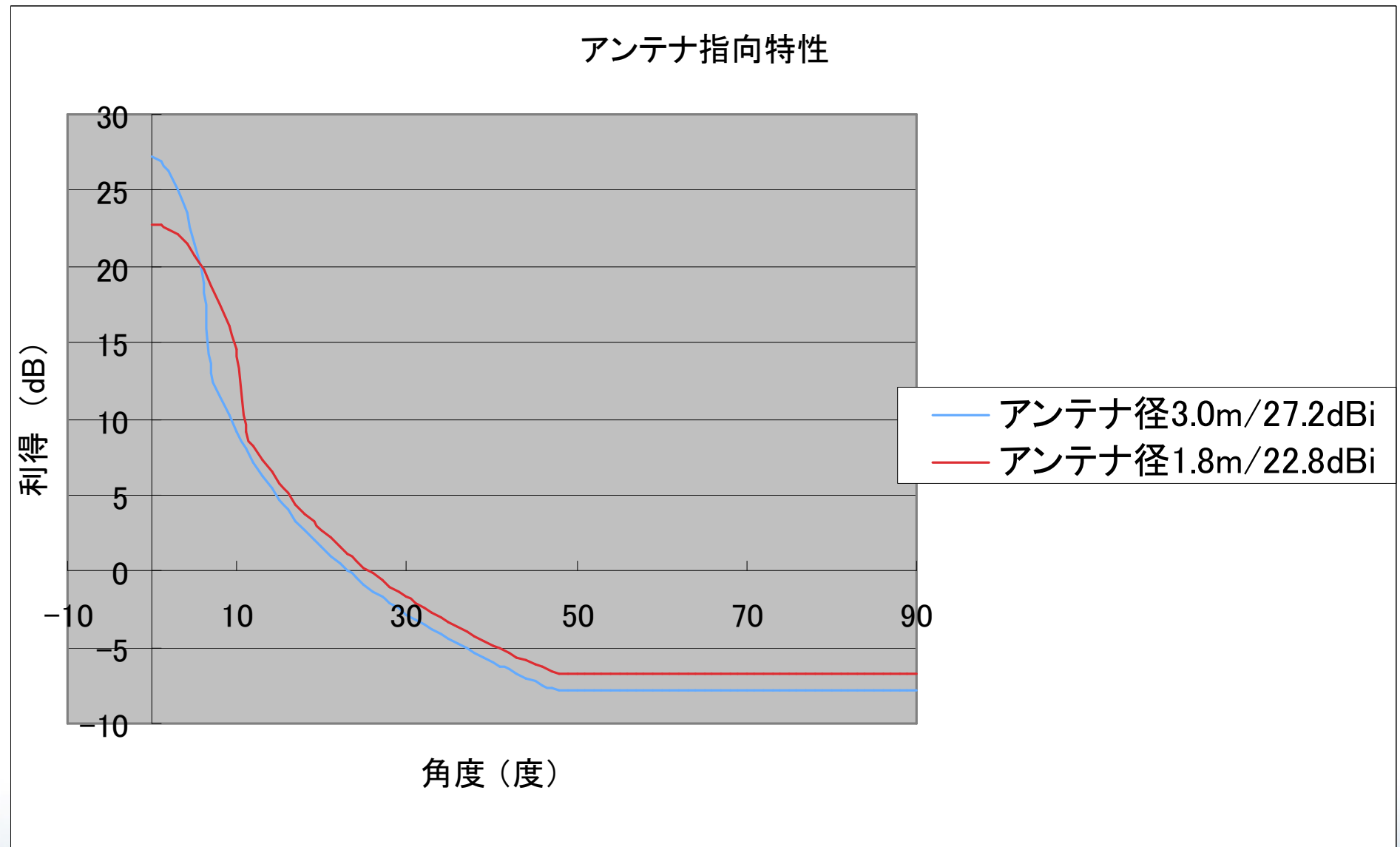
	音声STL		
	山間部	都市部	備考
送信周波数帯 (MHz)	958.6、959.0 959.4、959.8	958.6、959.0 959.4、959.8	
出力 (dBm)	40.0	40.0	
送信給電線系損失 (dB)	-2.1	-4.5	
不要発射の強度 (dBc)	-50.0	-50.0	以下
アンテナ開口径 (m)	3.0	3.0	
アンテナ利得 (dBi)	27.2	27.2	Rec.ITU-R F.1245-1(05/2000)適用
アンテナ高 (m)	14.0	53.5	
送信アンテナ指向特性	P6に記載		Rec.ITU-R F.1245-1(05/2000)適用

STL側干渉調査パラメータ例（受信側）

STLの受信パラメータ例

	音声STL		
	山間部	都市部	備考
受信周波数帯 (MHz)	958.6、959.0 959.4、959.8	958.6、959.0 959.4、959.8	
標準受信電力 (dBm)	-45.0	-45.0	
雑音レベル (dBm/100kHz)	-116.0	-116.0	
所要 I/N (dB)	-10.0	-10.0	以下
許容干渉電力 (dBm/100kHz)	-126.0	-126.0	
許容感度抑圧電力 (dBm)	-40.0	-40.0	ガードバンド1MHz以上
	-56.0	-56.0	ガードバンド0.5-1MHz
	-71.0	-71.0	ガードバンド0.3-0.5MHz
アンテナ開口径 (m)	1.8	1.8	
受信アンテナ利得 (dBi)	22.8	22.8	Rec.ITU-R F.1245-1(05/2000)適用
受信給電線系損失 (dB)	-1.5	-9.6	
受信アンテナ高 (m)	8.0	76.5	
受信アンテナ指向特性	P6に記載		

STLのアンテナ指向特性(水平面、垂直面)



LTE基地局および移動局のパラメータ(その1)

(赤枠は今回使用したもの)

ア 送信側パラメータ

	LTE 基地局				LTE 移動局			
	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯
送信周波数帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯
最大送信出力	36dBm/MHz ^{注3}				23dBm ^{注2 6.2.2}			
送信空中線利得	14dBi ^{注3}	17dBi ^{注3 表3.5-1}			0dBi ^{注3 表3.5-1}			
送信給電線損失	5dB ^{注3}	5dB ^{注3 表3.5-1}			0dB ^{注3 表3.5-1}			
アンテナ指向特性(水平)	図3.2.1-1参照				オムニ			
アンテナ指向特性(垂直)	図3.2.1-2参照				オムニ			
空中線高	40m ^{注3 表3.5-1}				1.5m ^{注3 表3.5-1}			
帯域幅(BWChannel)	5、10、15、20MHz				5、10、15、20MHz			
隣接チャネル漏えい電力	下記または-13dBm/MHzの高い値 -44.2dBc (BWChannel/2+2.5MHz離調) -44.2dBc (BWChannel/2+7.5MHz離調)				下記または-50dBm/3.84MHzの高い値 -33dBc (BWChannel/2+2.5MHz離調) ^{注2 Table 6.6.2.3.2-1} -36dBc (BWChannel/2+7.5MHz離調) ^{注2 Table 6.6.2.3.2-1}			
スプリアス強度(30MHz-1GHz)	-13dBm/100kHz ^{注1}				-36dBm/100kHz ^{注2}			
(1GHz-12.75GHz)	-13dBm/MHz				-30dBm/MHz			
(1884.5-1919.6MHz)	-41dBm/300kHz				-41dBm/300kHz 表3.2.1-3参照 ^{注2}			
相互変調歪	希望波を30dB下回る妨害波の下で、許容輻射限界を超えないもの				規定無し			

スペクトラムマスク特性	規定無し	図3.2.1-3参照 ^{注2}
送信フィルタ特性	表3.2.1-4参照	-
その他の損失	-	8dB(人体吸収損) ^{注3}

注1: 3GPP TS36.104v8.3.0(2008-9)

注2: 3GPP TS36.101v8.3.0(2008-9)

注3: 「携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告」(平成17年5月30日)

イ 受信側パラメータ

	LTE 基地局				LTE 移動局			
	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯
受信周波数帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯	800MHz帯	1.5GHz帯	1.7GHz帯	2GHz帯
許容干渉電力	-119dBm/MHz (I/N=-10dB)				-110.8dBm/MHz (I/N=-6dB)			
許容感度抑圧電力	-43dBm ^{注1}				-56dBm ^{注2} (BWChannel/2+7.5MHz離調) -44dBm ^{注2} (BWChannel/2+12.5MHz離調)			
受信空中線利得	14dBi ^{注3}	17dBi ^{注3}			0dBi ^{注3}			
送信給電線損失	5dB ^{注3}				0dB ^{注3}			
空中線高	40m ^{注3}				1.5m ^{注3}			
その他の損失	-				8dB(人体吸収損) ^{注3}			

注1: 3GPP TS36.104v8.3.0(2008-9)

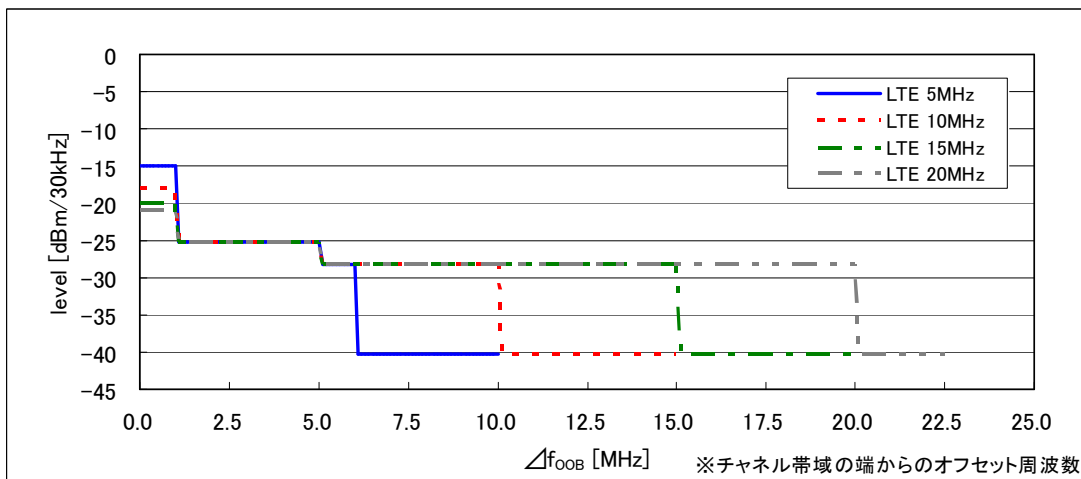
注2: 3GPP TS36.101v8.3.0(2008-9)

注3: 「携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告」(平成17年5月30日)

表3.2.1-3 移動局のスプリアス強度に係る規定

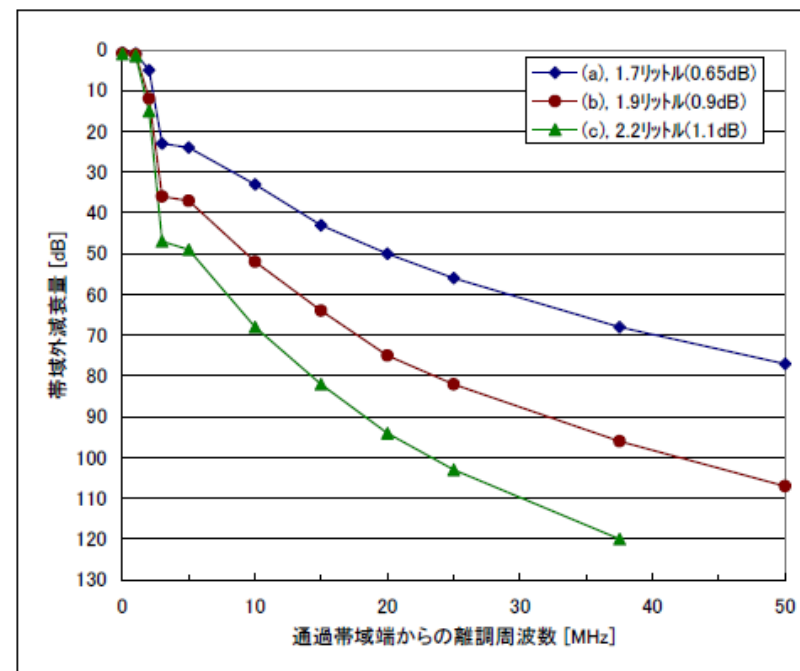
周波数範囲	許容値	参照帯域幅
800MHz帯受信帯域 860MHz以上895MHz以下	-40dBm	1MHz
1.5GHz帯受信帯域 1475.9MHz以上1510.9MHz以下	-50dBm	1MHz
1.7GHz帯受信帯域 1844.9MHz以上1879.9MHz以下	-50dBm	1MHz
PHS帯域 1884.5MHz以上1919.6MHz以下	-41dBm	300kHz
2GHz帯受信帯域 2110MHz以上2170MHz以下	-50dBm	1MHz

LTE基地局および移動局のパラメータ(その2)



Δf_{OOB} (MHz)	LTE チャンネル幅毎の SEM 特性 (dBm/REF)				参照帯域幅 (REF)
	5MHz	10MHz	15MHz	20MHz	
$\pm 0-1$	-15	-18	-20	-21	30 kHz
$\pm 1-2.5$	-10	-10	-10	-10	1 MHz
$\pm 2.5-5$	-10	-10	-10	-10	1 MHz
$\pm 5-6$	-13	-13	-13	-13	1 MHz
$\pm 6-10$	-25	-13	-13	-13	1 MHz
$\pm 10-15$		-25	-13	-13	1 MHz
$\pm 15-20$			-25	-13	1 MHz
$\pm 20-25$				-25	1 MHz

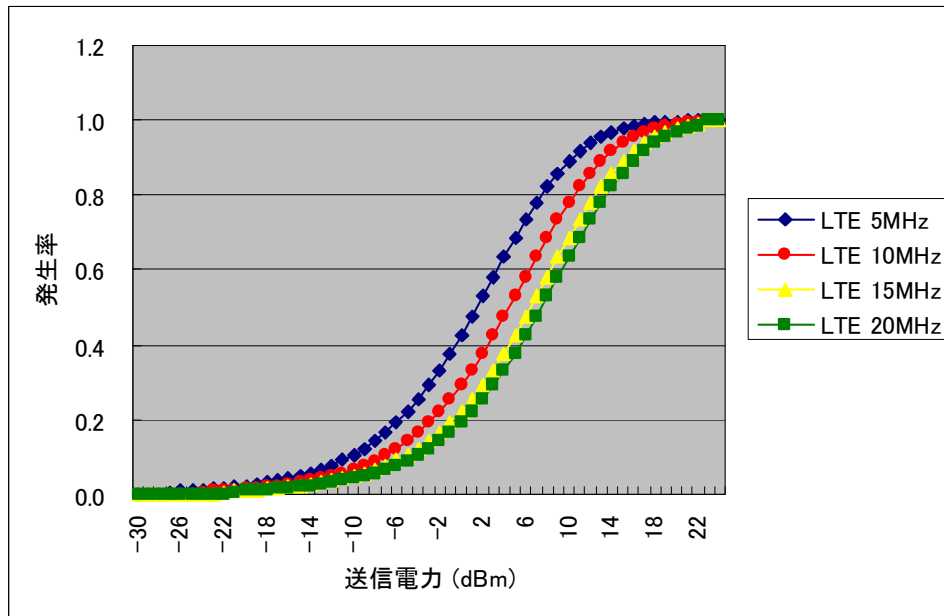
LTE 移動局のスペクトラムエミッションマスク (SEM) 特性



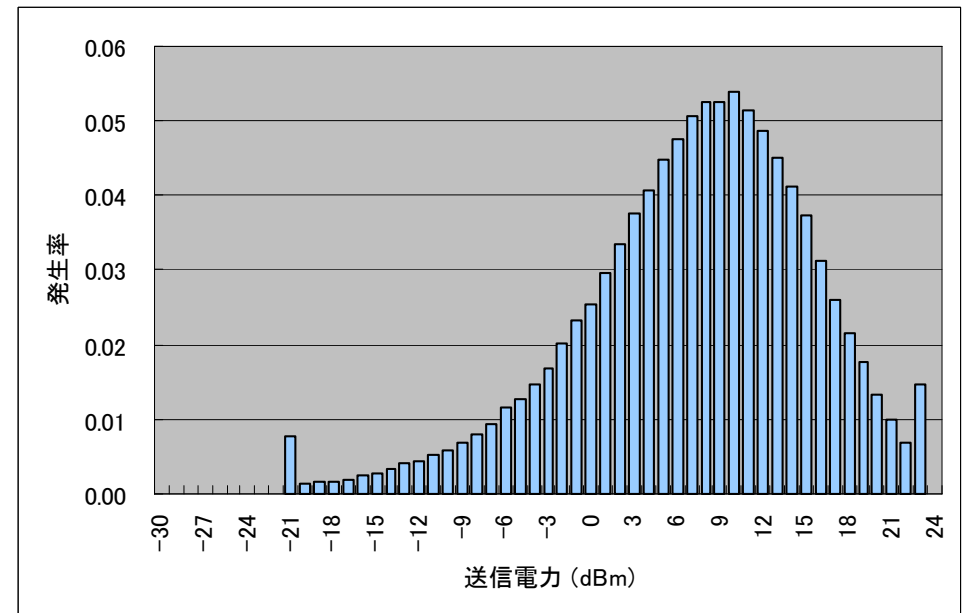
LTE基地局の送受信フィルタ特性

(「携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告」(平成18年12月21日) 図3. 2-3を引用)
 注: W-CDMA、CDMA2000 基地局の送受信フィルタも同様の特性を用いる。

LTE基地局および移動局のパラメータ(その3)

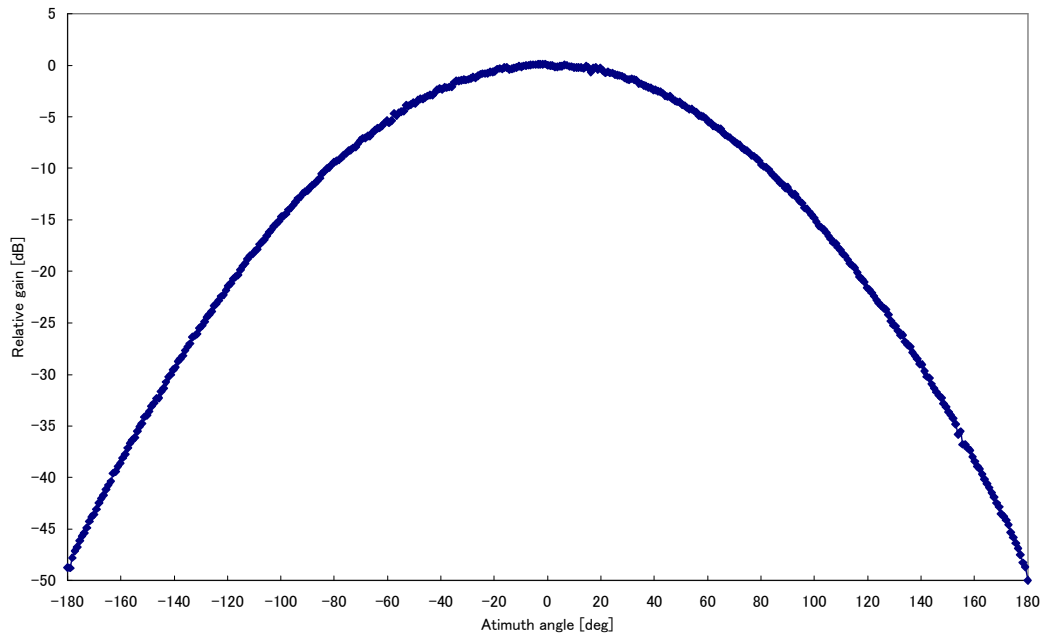


LTE移動局の送信電力累積確率



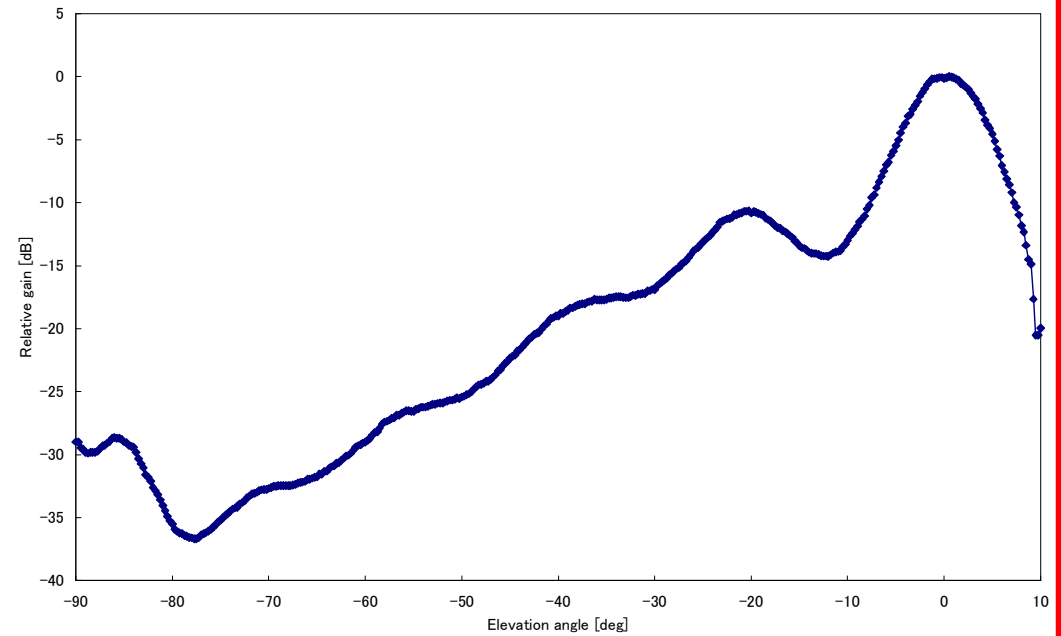
LTE移動局の送信電力分布 (LTEチャネル幅20MHz運用例)

LTE基地局のパラメータ



LTE基地局の送受信アンテナパターン（水平面）

（「携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告」（平成18年12月21日）図3. 2-1を引用）



LTE基地局の送受信アンテナパターン（垂直面）

（「携帯電話等周波数有効利用方策委員会報告」（平成18年12月21日）図3. 2-2を引用）

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その1)

表 1-1 小電力レピータ (送信側に係る情報)

	陸上移動局対向器	基地局対向器
送信周波数帯	700MHzまたは900MHz	700MHzまたは900MHz
最大送信出力	24 dBm 図 1-3	16 dBm 図 1-4
送信空中線利得	0 dBi	9 dBi
送信給電線損失	0 dB	0 dB (一体型) 12 dB (分離型)
アンテナ指向特性 (水平)	オムニ	図 1-1
アンテナ指向特性 (垂直)	オムニ	図 1-2
送信空中線高	2 m	2 m (一体型) 5 m (分離型)
隣接チャネル漏えい電力 ^{注1}	送信周波数帯域端から2.5MHz離れ (送信周波数帯域を除く): -3dBm/MHz以下 送信周波数帯域端から7.5MHz離れ (送信周波数帯域を除く): -3dBm/MHz以下	送信周波数帯域端から 2.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -32.2dBc/3.84MHz 以下 送信周波数帯域端から 7.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -35.2dBc/3.84MHz 以下
スプリアス強度 ^{注1}	30MHz-10Hz (送信周波数帯域端から 10MHz 以上離れ (送信周波数帯域を除く)): -13dBm/100kHz以下	30MHz-10Hz (送信周波数帯域端から 10MHz 以上離れ (送信周波数帯域を除く)): -26dBm/100kHz 以下
帯域外利得	帯域端から 5MHz 離れ: 35dB 帯域端から 40MHz 離れ: 0dB	帯域端から 5MHz 離れ: 35dB 帯域端から 40MHz 離れ: 0dB

注1 干渉調査に必要な特性についてのみ記載した

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その2)

表 1-2 小電力レピータ (受信側に係る情報)

	陸上移動局対向器	基地局対向器
受信周波数帯	700MHzまたは900MHz	700MHzまたは900MHz
許容干渉電力	[帯域内] -118.9dBm/MHz [帯域外] -44dBm	[帯域内] -110.9dBm/MHz [帯域外] -56dBm (5MHz離調) -44dBm (10MHz離調)
受信空中線利得	0 dBi	9 dBi
受信給電線損失	0 dB	0 dB (一体型) 12 dB (分離型)
アンテナ指向特性 (水平)	オムニ	図 1-1
アンテナ指向特性 (垂直)	オムニ	図 1-2
受信空中線高	2 m	2 m (一体型) 5 m (分離型)

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その3)

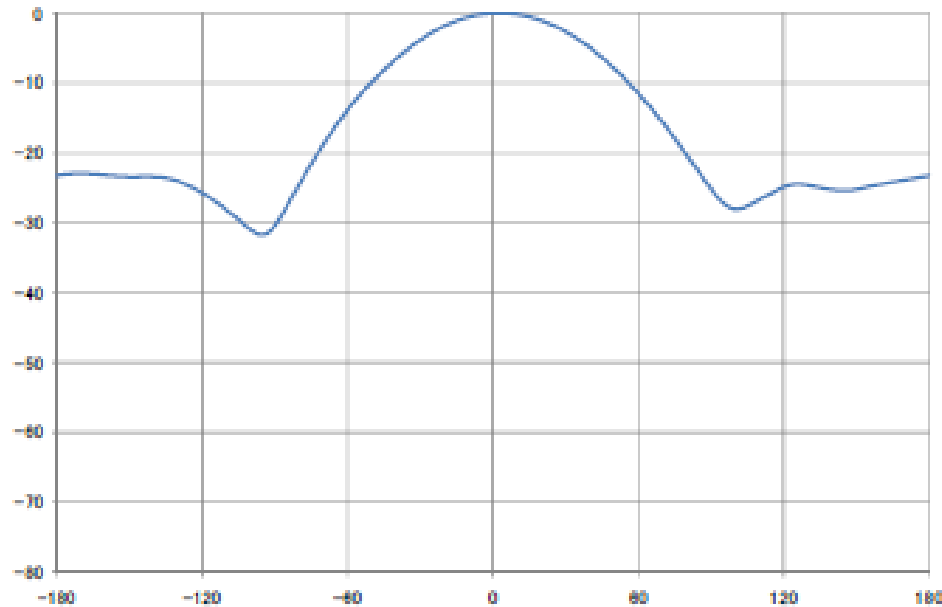


図 1-1 小電力レピータアンテナ指向特性 (水平)

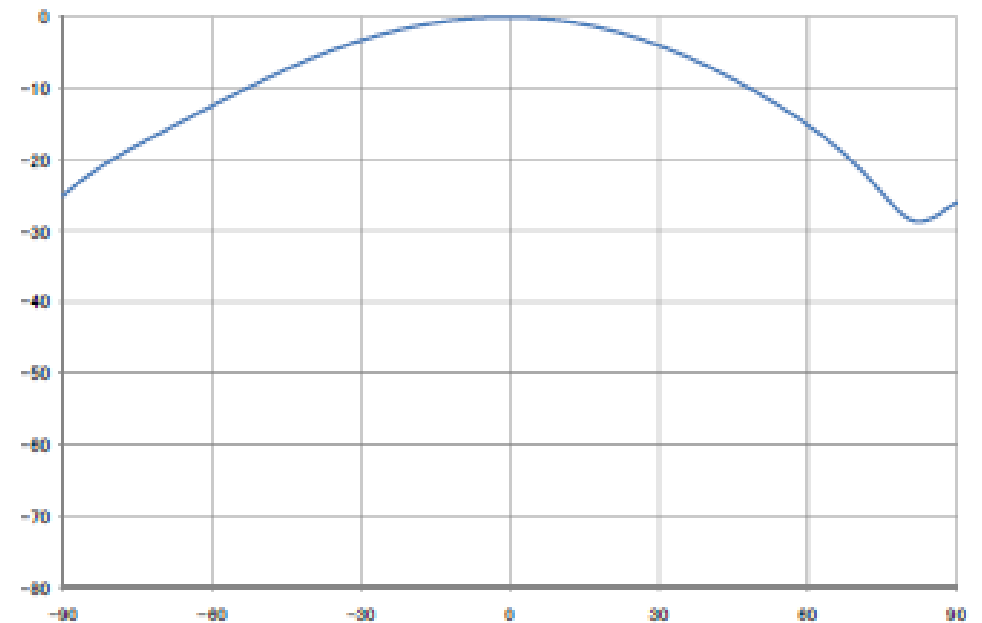
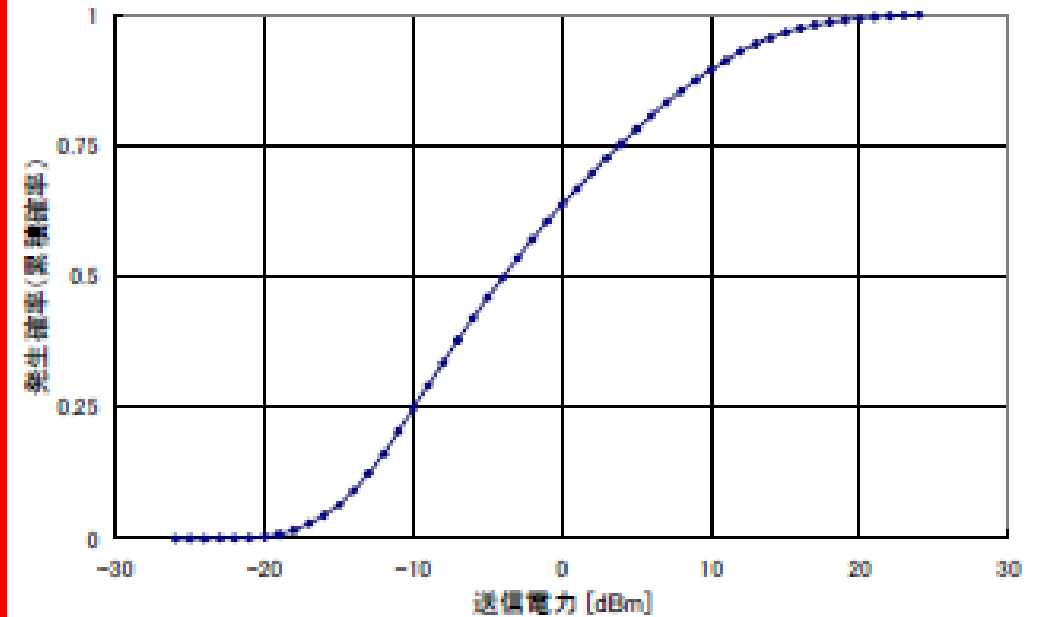
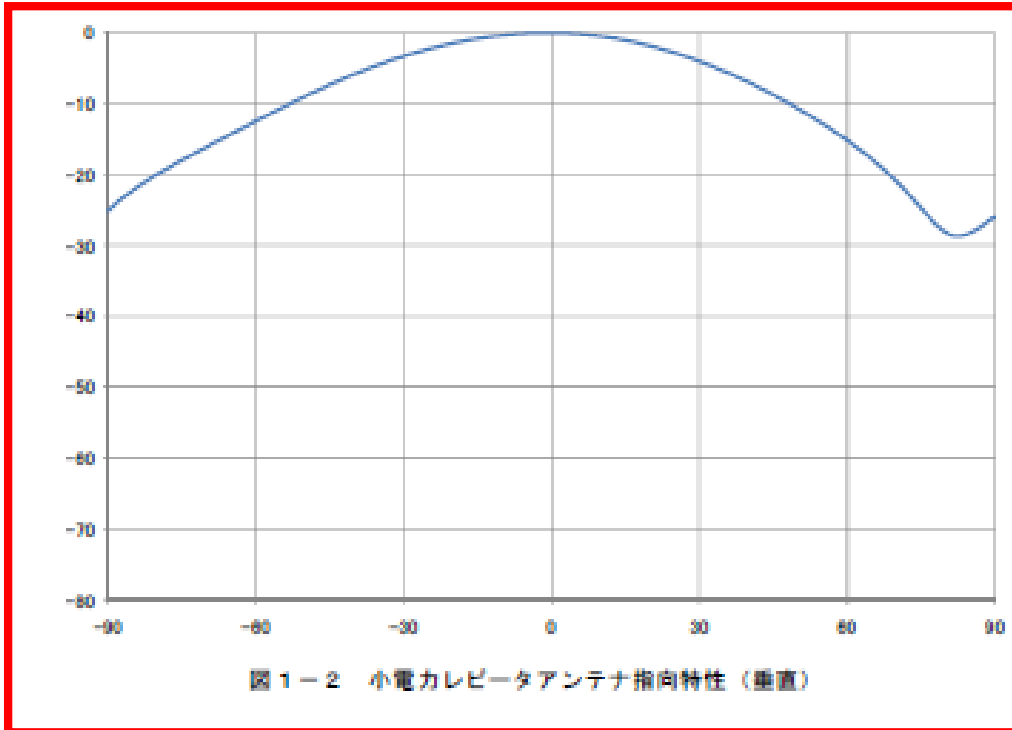


図 1-2 小電力レピータアンテナ指向特性 (垂直)

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その4)



小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その5)

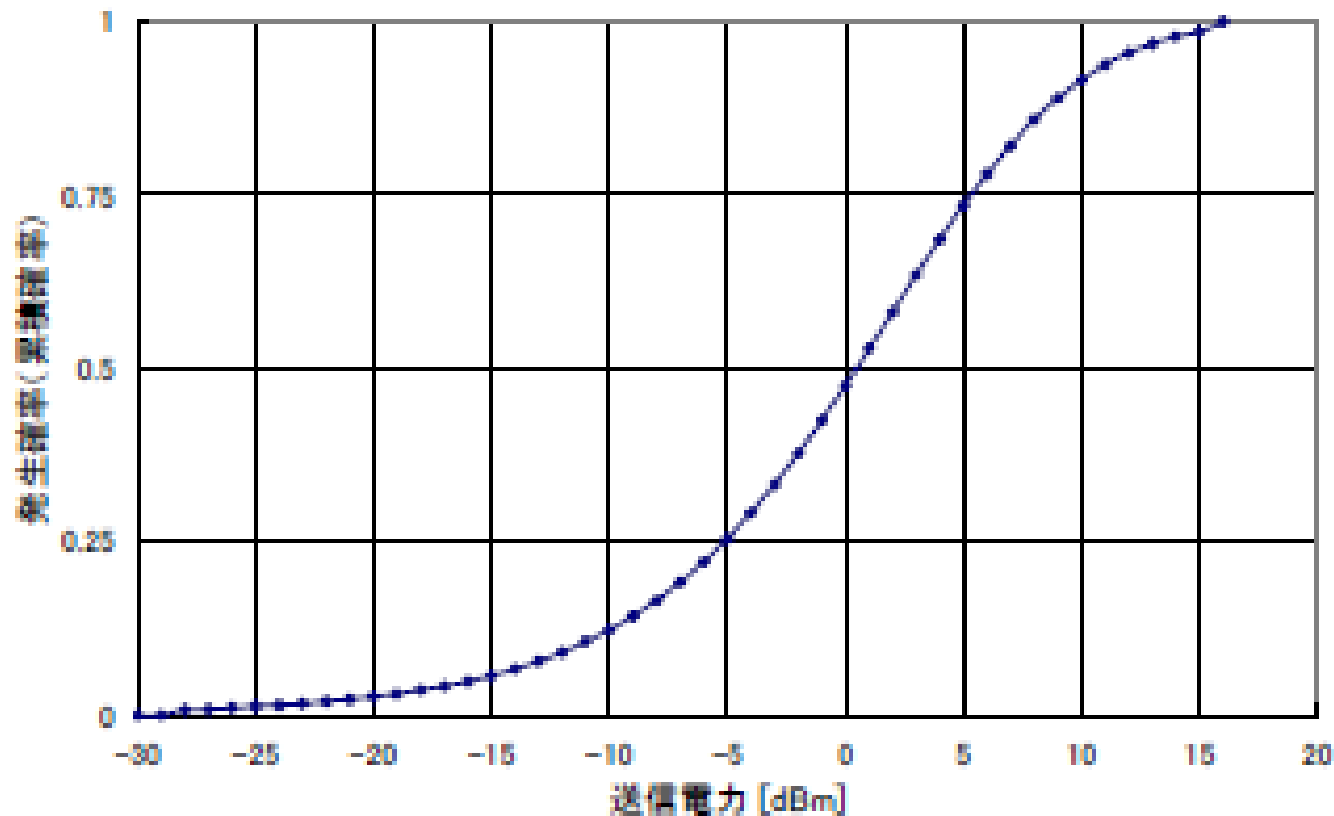


図1-4 送信電力分布(基地局対向器送信)

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その6)

表 2-1 陸上移動中継局 (送信側に係る情報)

	陸上移動局対向器	基地局対向器
送信周波数帯	700MHzまたは900MHz	700MHzまたは900MHz
最大送信出力	[屋外エリア用] 38 dBm (図 2-7) [屋内エリア用] 26 dBm (図 2-7)	[屋外エリア用] 23 dBm (図 2-8) [屋内エリア用] 20.4 dBm (図 2-8)
送信空中線利得	[屋外エリア用] 11 dBi [屋内エリア用]	[屋外エリア用] 13 dBi [屋内エリア用]

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その7)

送信給電線損失	[屋外エリア用] 8 dB [屋内エリア用] 0 dB (一体型) 10 dB (分離型)	[屋外エリア用] 8 dB [屋内エリア用] 0 dB (一体型) 10 dB (分離型)
アンテナ指向特性 (水平)	[屋外エリア用] 図2-1 [屋内エリア用] オムニ	[屋外エリア用] 図2-3 [屋内エリア用] 図2-4
アンテナ指向特性 (垂直)	[屋外エリア用] 図2-2 [屋内エリア用] オムニ	[屋外エリア用] 図2-5 [屋内エリア用] 図2-6
送信空中線高	[屋外エリア用] 15 m [屋内エリア用] 2 m (一体型) 3 m (分離型)	[屋外エリア用] 15 m [屋内エリア用] 2 m (一体型) 10 m (分離型)
隣接チャネル漏えい電力 ^{※1}	送信周波数帯域端から 2.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -44.2dBc/3.84MHz 以下 又は、 +2.8dBm/3.84MHz 以下 送信周波数帯域端から 7.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -44.2dBc/3.84MHz 以下 又は、 +2.8dBm/3.84MHz 以下	送信周波数帯域端から 2.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -32.2dBc/3.84MHz 以下 送信周波数帯域端から 7.5MHz 離れ (送信周波数帯域を除く): -35.2dBc/3.84MHz 以下
スプリアス強度 ^{※1}	30MHz-1GHz (送信周波数帯域端から 10MHz 以上離れ (送信周波数帯域を除く)): -13dBm/100kHz 以下	30MHz-1GHz (送信周波数帯域端から 10MHz 以上離れ (送信周波数帯域を除く)): -26dBm/100kHz 以下
帯域外利得	帯域端から 200kHz 離れ: 60dB 帯域端から 1MHz 離れ: 45dB 帯域端から 10MHz 離れ: 35dB	帯域端から 200kHz 離れ: 60dB 帯域端から 1MHz 離れ: 45dB 帯域端から 10MHz 離れ: 35dB

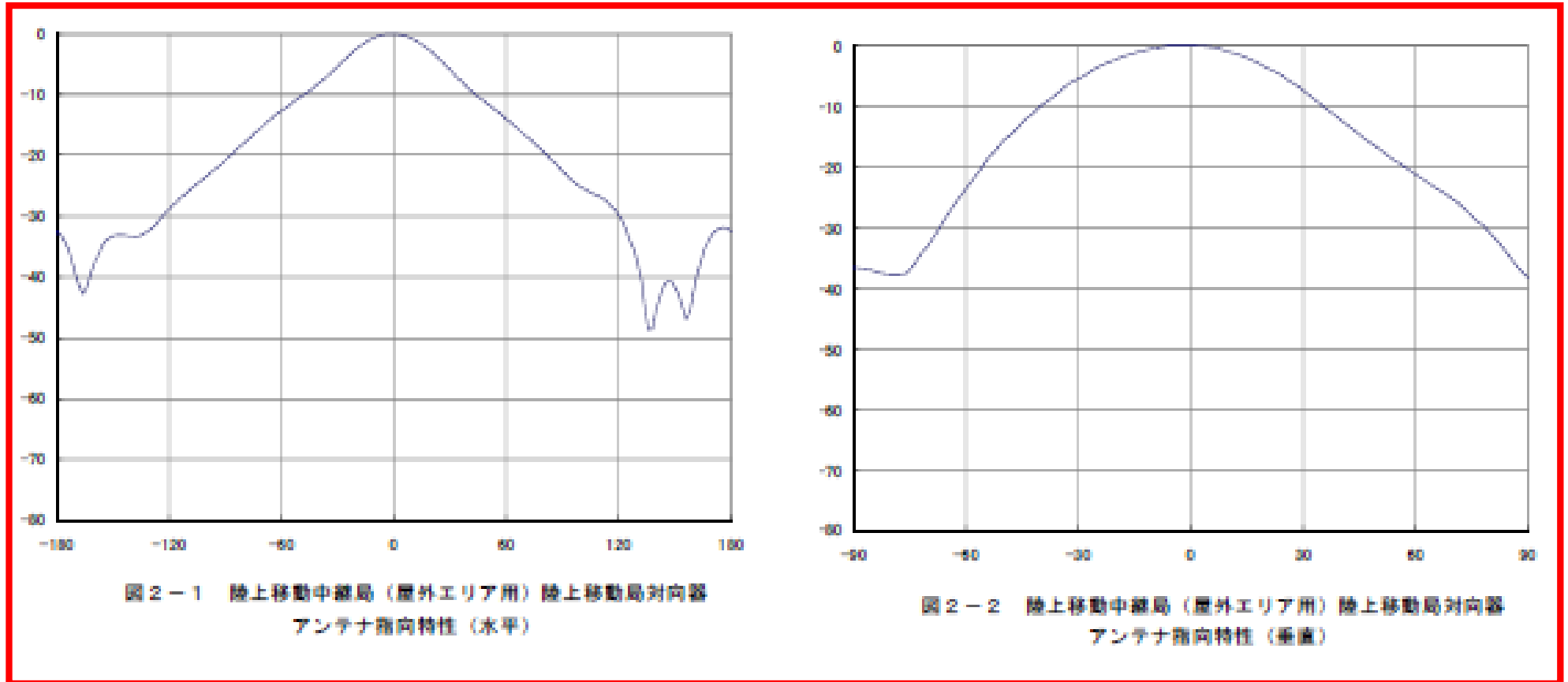
注1 干渉調査に必要な特性についてのみ記載した

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その8)

表 2-2 陸上移動中継局 (受信側に係る情報)

	陸上移動局対向器	基地局対向器
受信周波数帯	700MHzまたは900MHz	700MHzまたは900MHz
許容干渉電力	[帯域内] -118.9dBm/MHz [帯域外] -44dBm	[帯域内] -110.9dBm/MHz [帯域外] -56dBm (5MHz離隔) -44dBm (10MHz離隔)
受信空中線利得	[屋外エリア用] 11 dBi [屋内エリア用] 0 dBi	[屋外エリア用] 13 dBi [屋内エリア用] 7 dBi
受信給電線損失	[屋外エリア用] 8 dB [屋内エリア用] 0 dB (一体型) 10 dB (分離型)	[屋外エリア用] 8 dB [屋内エリア用] 0 dB (一体型) 10 dB (分離型)
アンテナ指向特性 (水平)	[屋外エリア用] 図 2-1 [屋内エリア用] オムニ	[屋外エリア用] 図 2-3 [屋内エリア用] 図 2-4
アンテナ指向特性 (垂直)	[屋外エリア用] 図 2-2 [屋内エリア用] オムニ	[屋外エリア用] 図 2-5 [屋内エリア用] 図 2-6
受信空中線高	[屋外エリア用] 15 m [屋内エリア用] 2 m (一体型) 3 m (分離型)	[屋外エリア用] 15 m [屋内エリア用] 2 m (一体型) 10 m (分離型)

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その9)



小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その10)

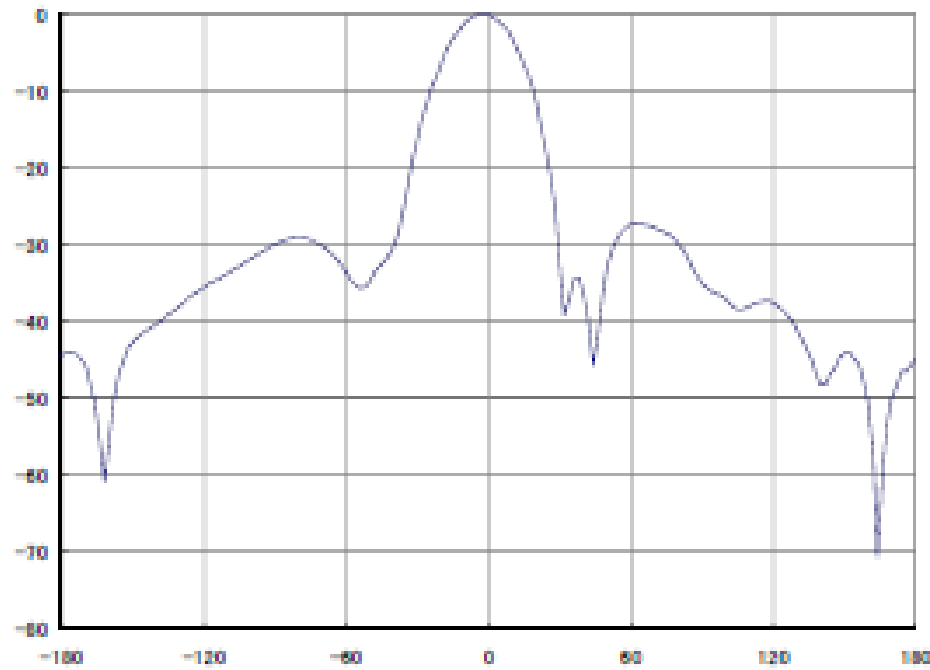


図 2-3 陸上移動中継局（屋外エリア用）基地局対向器
アンテナ指向特性（水平）

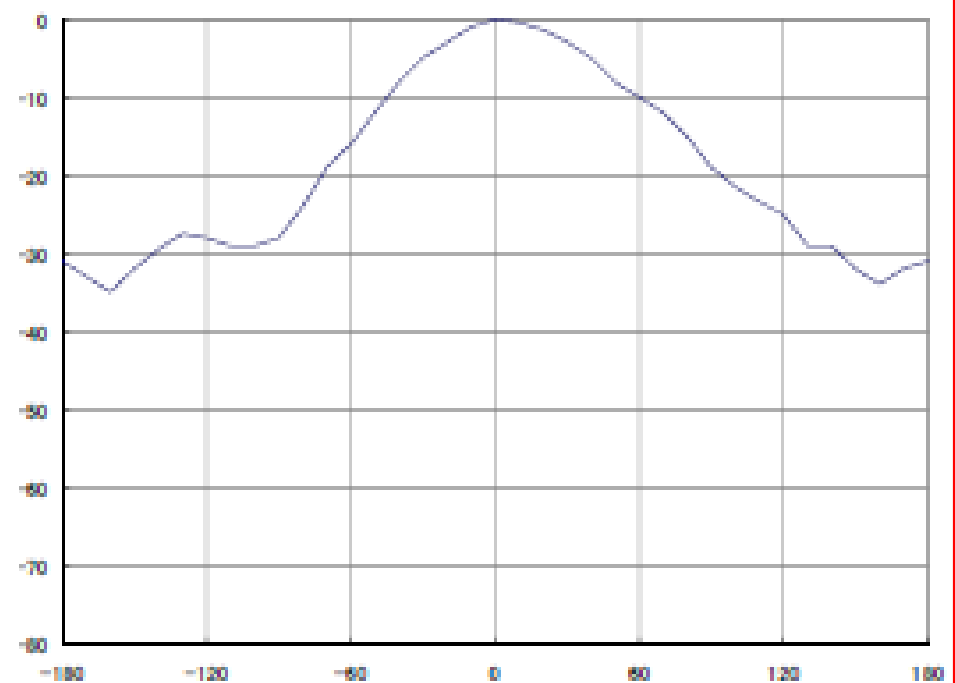


図 2-4 陸上移動中継局（屋内エリア用）基地局対向器
アンテナ指向特性（水平）

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その11)

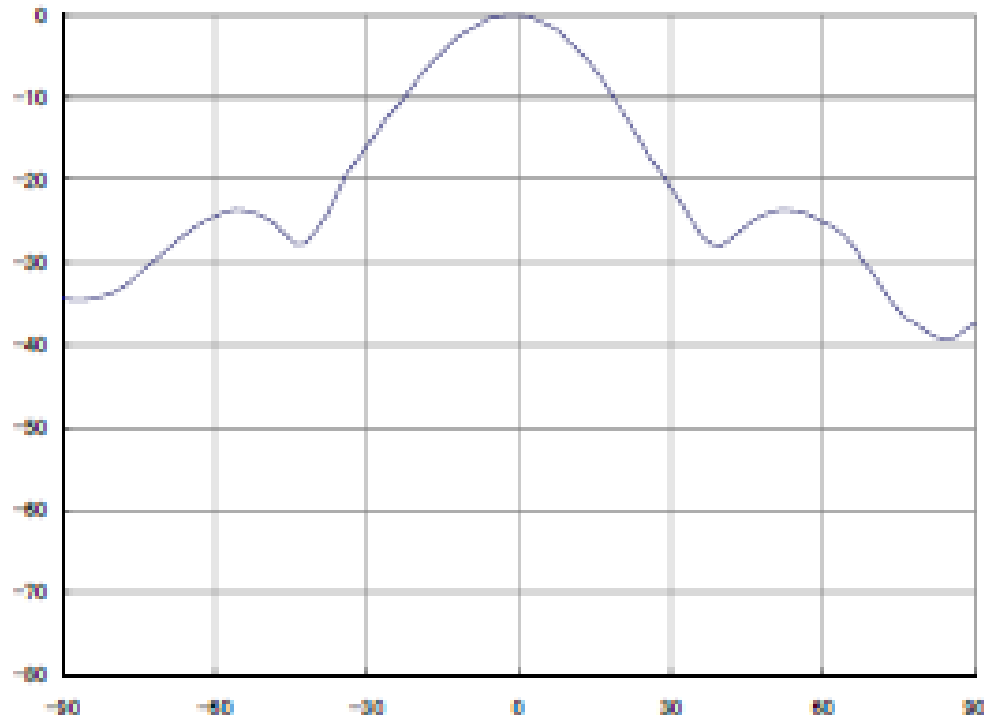


図 2-5 陸上移動中継局（屋外エリア用）基地局対向器
アンテナ指向特性（垂直）

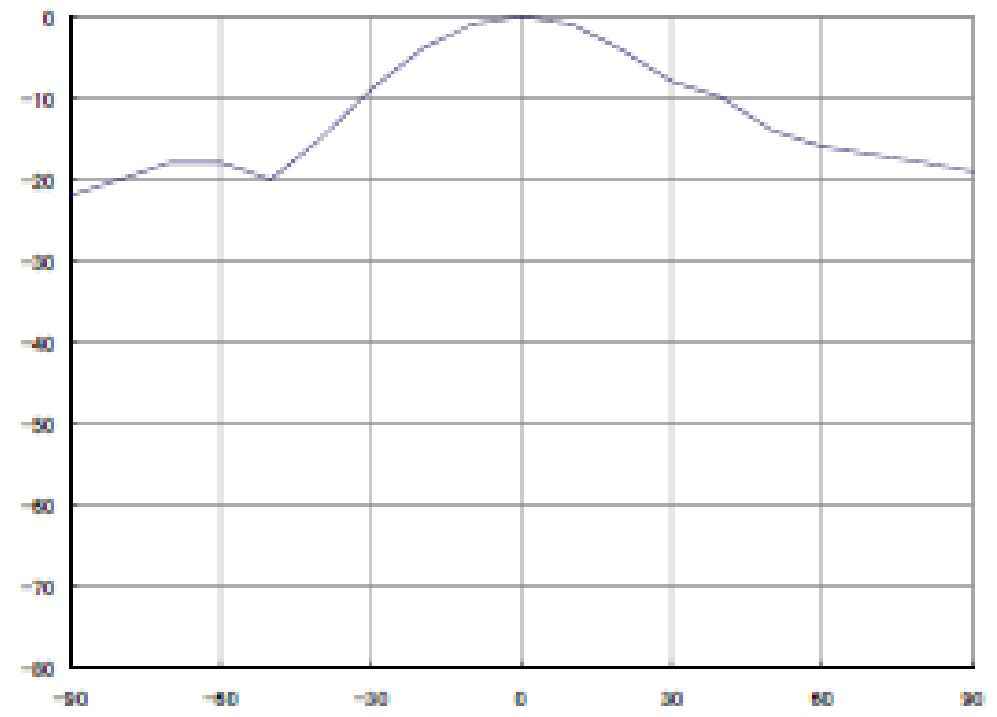


図 2-6 陸上移動中継局（屋内エリア用）基地局対向器
アンテナ指向特性（垂直）

小電力レピータおよび陸上移動中継局のパラメータ(その12)

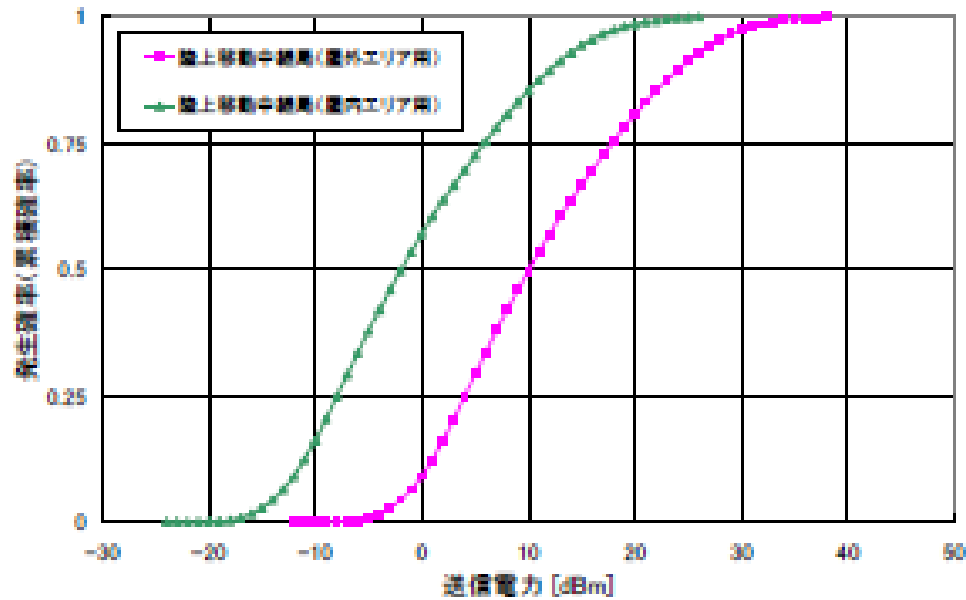


図 2 - 7 送信電力分布 (陸上移動局対向器送信)

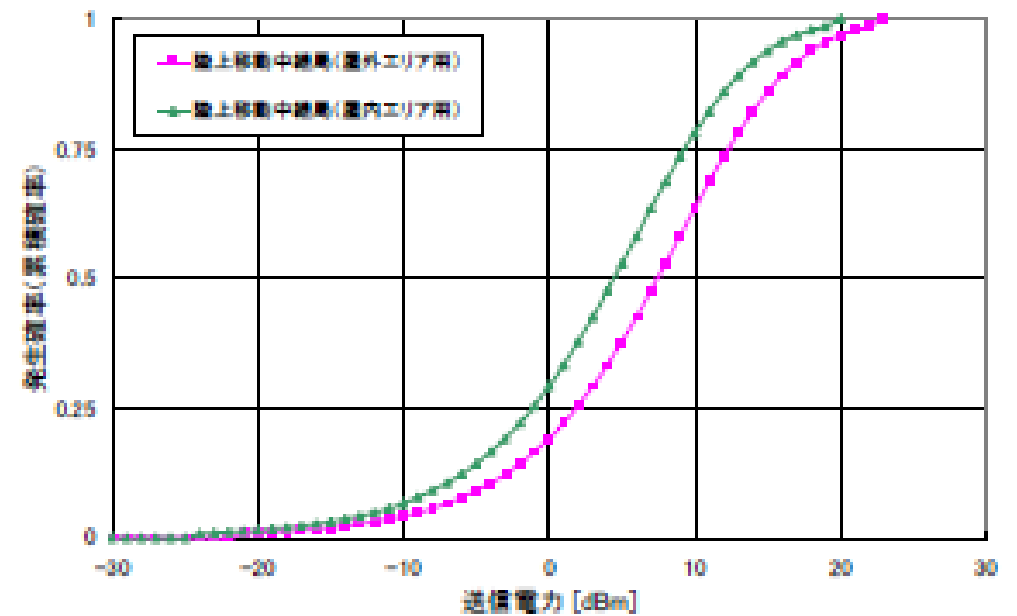


図 2 - 8 送信電力分布 (基地局対向器送信)

LTEの帯域幅による送信出力一覧

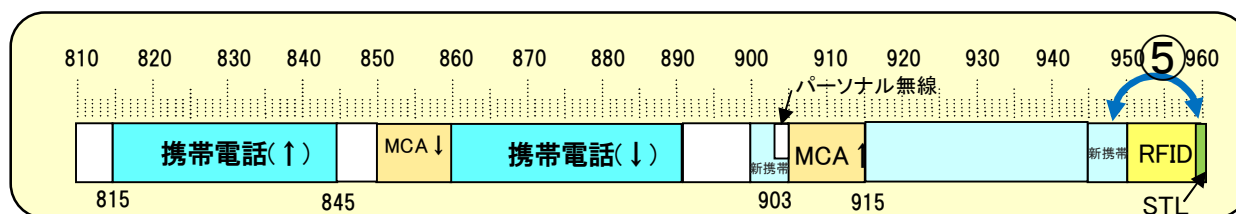
帯域幅		5MHz	10MHz	15MHz
基地局 (dBm)		43	46	47.8
陸上移動局 (dBm)		23	23	23
小電力レピータ (dBm)	移動局向	24	24	24
	基地局向	16	16	16
陸上移動中継局 屋内エリア用 (dBm)	移動局向	26	26	26
	基地局向	20.4	20.4	20.4
陸上移動中継局 屋外エリア用 (dBm)	移動局向	38	38	38
	基地局向	23	23	23

干渉調査の組み合わせ

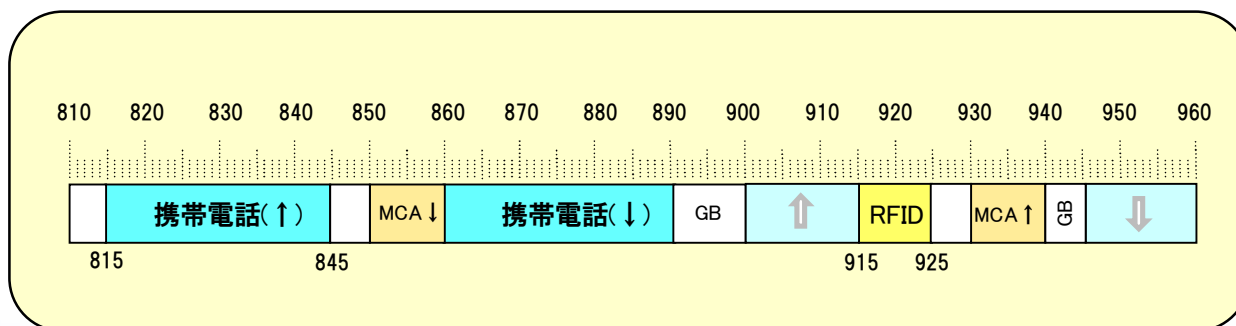
900MHz帯割当検討モデル案と必要な干渉検討パターン(資料81-41-3)

900MHz帯の再編案

案900-1: 3GPP BAND8(欧州)における割当を考慮した案
(現状の割当周波数による案)(5MHz×2)

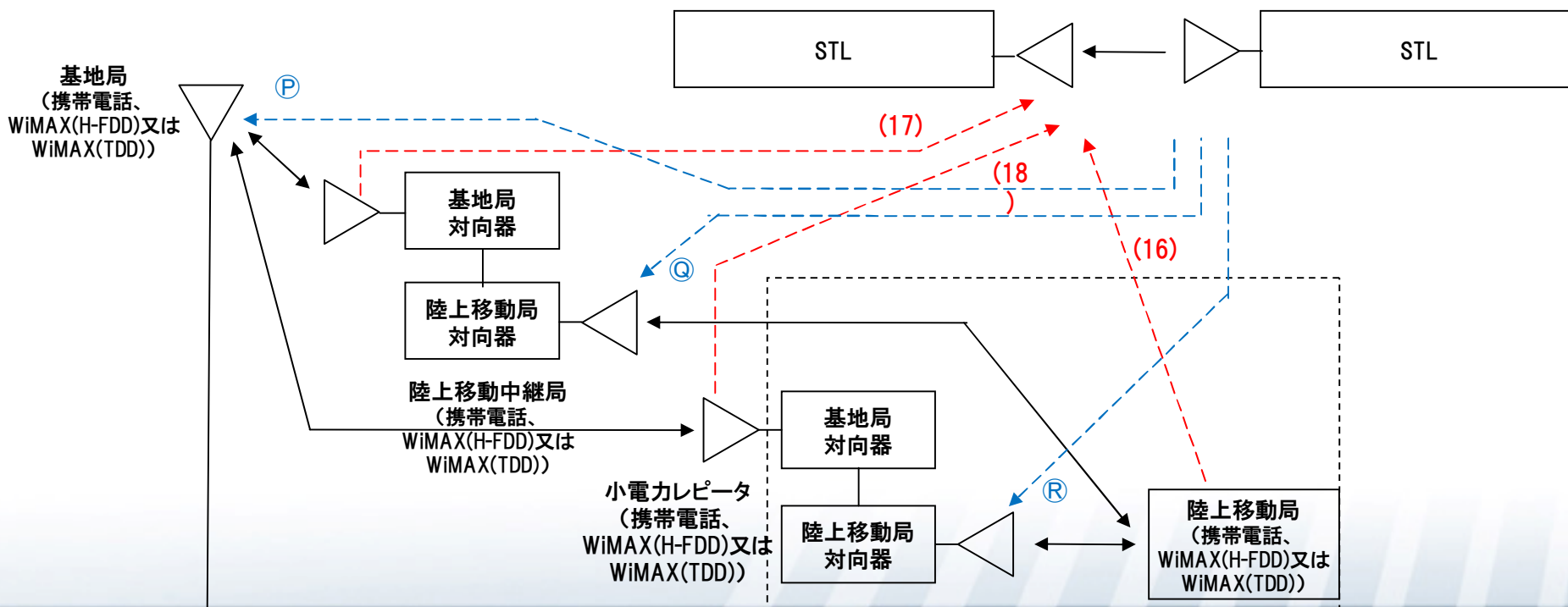
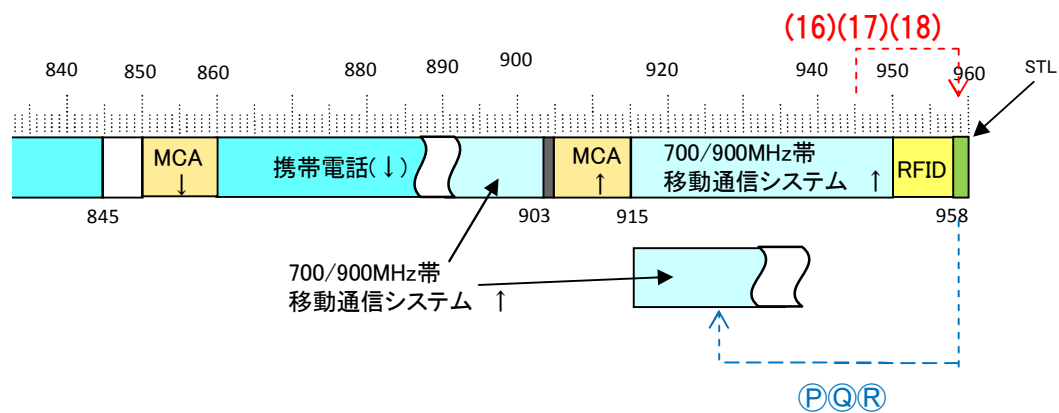


案900-2: 3GPP BAND8(欧州)における割当を考慮した案
(RFID/MCAをガードバンドに移行する案)(15MHz×2)

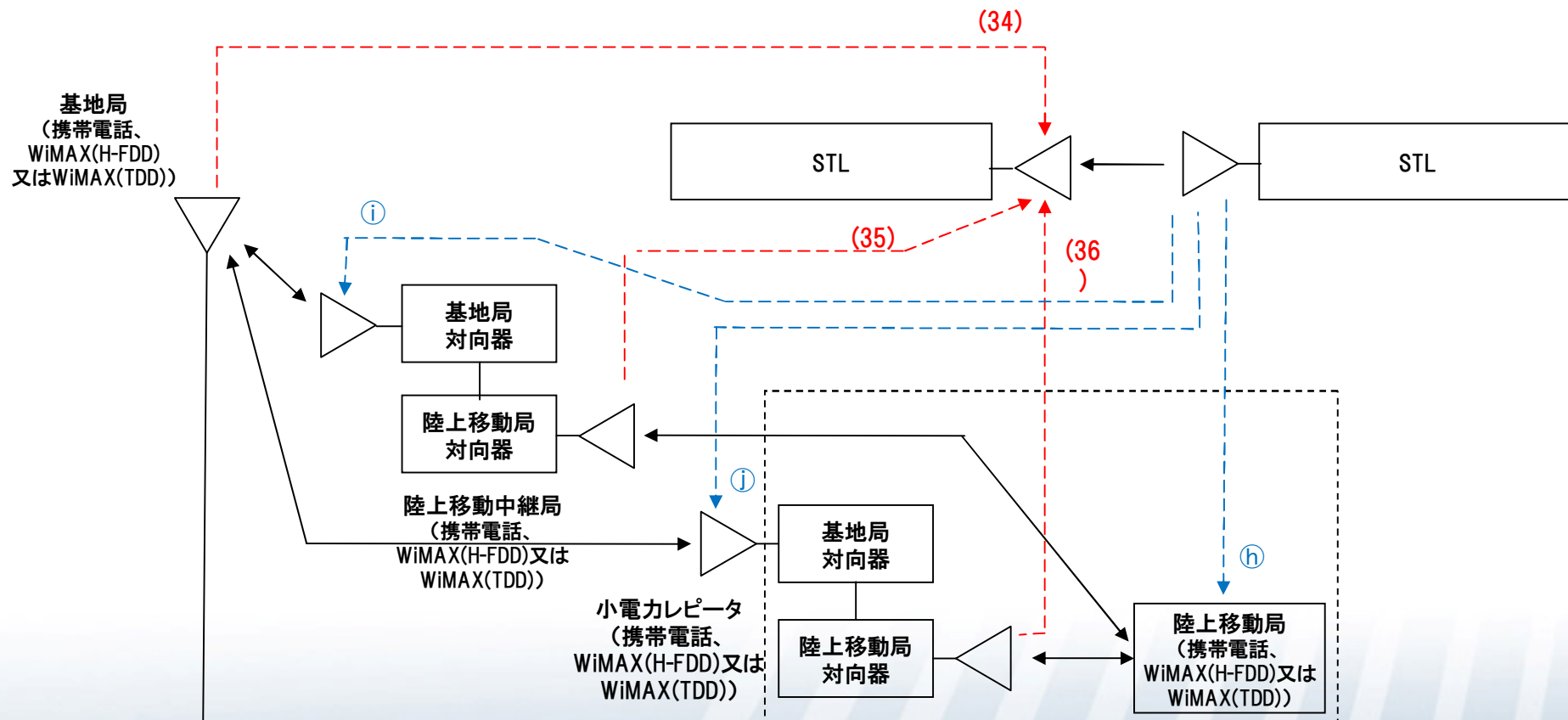
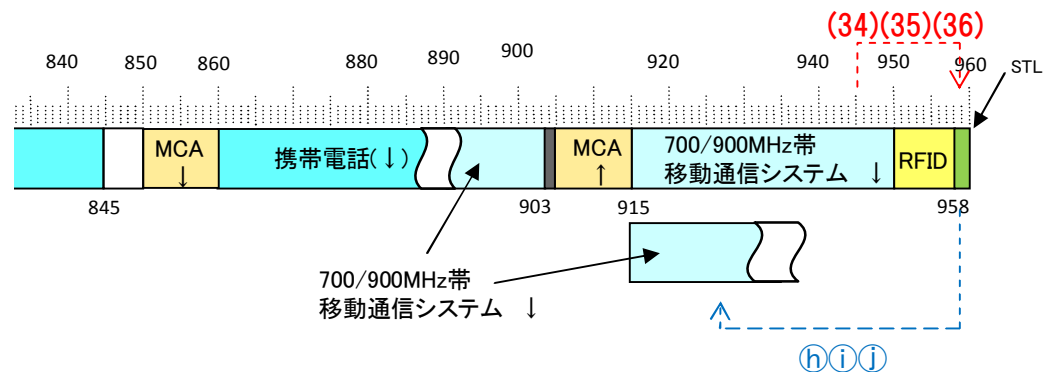


※今後の検討により、案900-1から案900-2に段階的に移行していくケースも想定される。

干渉調査シナリオ(900MHz帯:携帯電話↑-STL)



干渉調査シナリオ(900MHz帯: 携帯電話↓-STL)



干渉調査の方法について

■ 干渉調査の組合せ一覧

		与干渉				
		携帯電話				STL
		基地局	陸上移動局	陸上移動中継局	小電力レピータ	
被干渉	携帯電話	基地局				Ⓟ
		陸上移動局				ⓗ
		陸上移動中継局				Ⓠ, ⓲
		小電力レピータ				Ⓡ, ⓳
	STL	(34)	(16)	(17), (35)	(18), (36)	

■ 干渉調査方法

- 調査方法は、過去の情報通信技術審議会で使用した方法を参考とする。
- 干渉調査においては、被干渉局の許容干渉レベルに対する所要改善量を求める。なお、被干渉局の干渉評価の尺度として、許容干渉レベルの他に相応しい尺度がある場合は、当該尺度との関係について求めるものとする。
- 1対1の対向モデルによる検討を行う。

(参考資料)

■ 平成21年12月18日 情報通信審議会 情報通信技術分科会(第71回)配付資料 資料71-1-2 小電力無線システム委員会報告

「小電力の無線システムの高度化に必要な技術的条件」に関する一部答申【平成14年9月30日付け 情報通信技術分科会諮問第2009号】

- 移動体識別システム(UHF帯電子タグシステム)の技術的条件のうち中出力型950MHz帯パッシブタグシステムの技術的条件並びに高出力型及び低出力型950MHz帯パッシブタグシステムの高度化に必要な技術的条件
- 950MHz帯アクティブ系小電力無線システムの高度化に必要な技術的条件

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/joho_tsusin/bunkakai/22855.html

干渉調査組み合わせごとの調査モデル

1.STL⇒携帯電話基地局への干渉調査

①

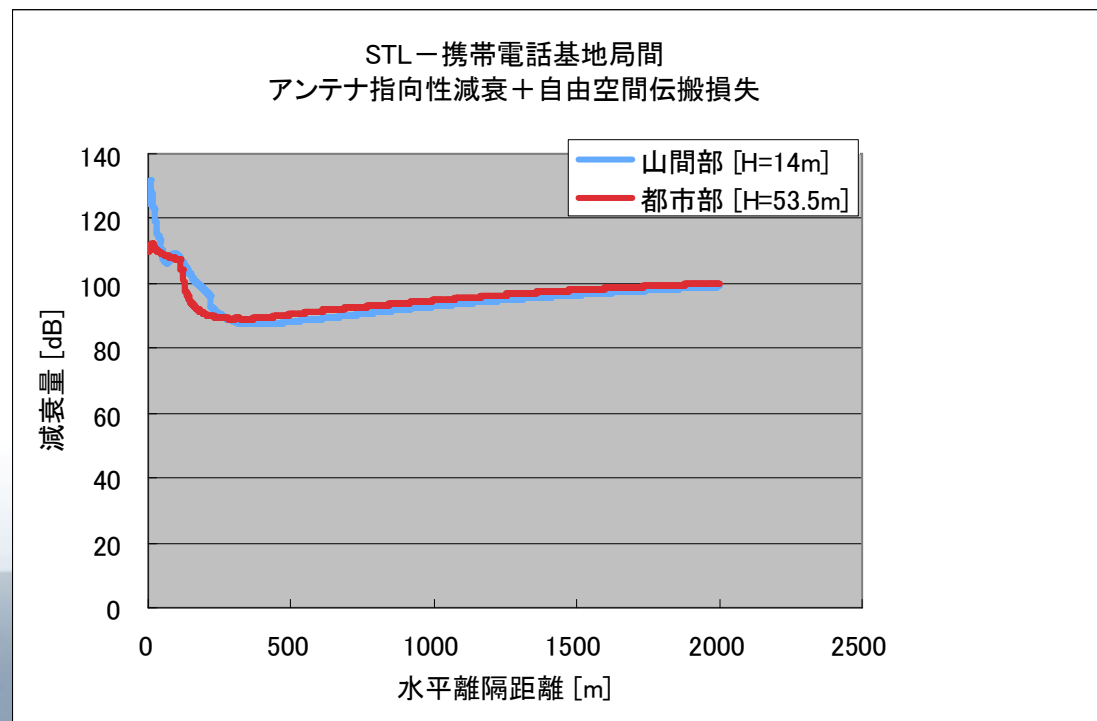
項番	項目	単位	LTE基地局 (10 MHz BW)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dBi	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	40.0	40.0	
k	送受アンテナ高低差	m	26.0	13.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dBi	14.0	14.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-5.0	-5.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-119.0	-119.0	
s	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-43.0	-43.0	
t	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	143.1	140.7	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	117.1	114.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

① 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	24.1 dBm/MHz	-119.0 dBm/MHz	143.1 dB	297 m	87.4 dB	55.7 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	74.1 dBm	-43.0 dBm	117.1 dB	297 m	87.4 dB	29.7 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	21.7 dBm/MHz	-119.0 dBm/MHz	140.7 dB	346 m	89.1 dB	51.6 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	71.7 dBm	-43.0 dBm	114.7 dB	346 m	89.1 dB	25.6 dB



2.STL⇒携帯電話移動局への干渉調査結果

②

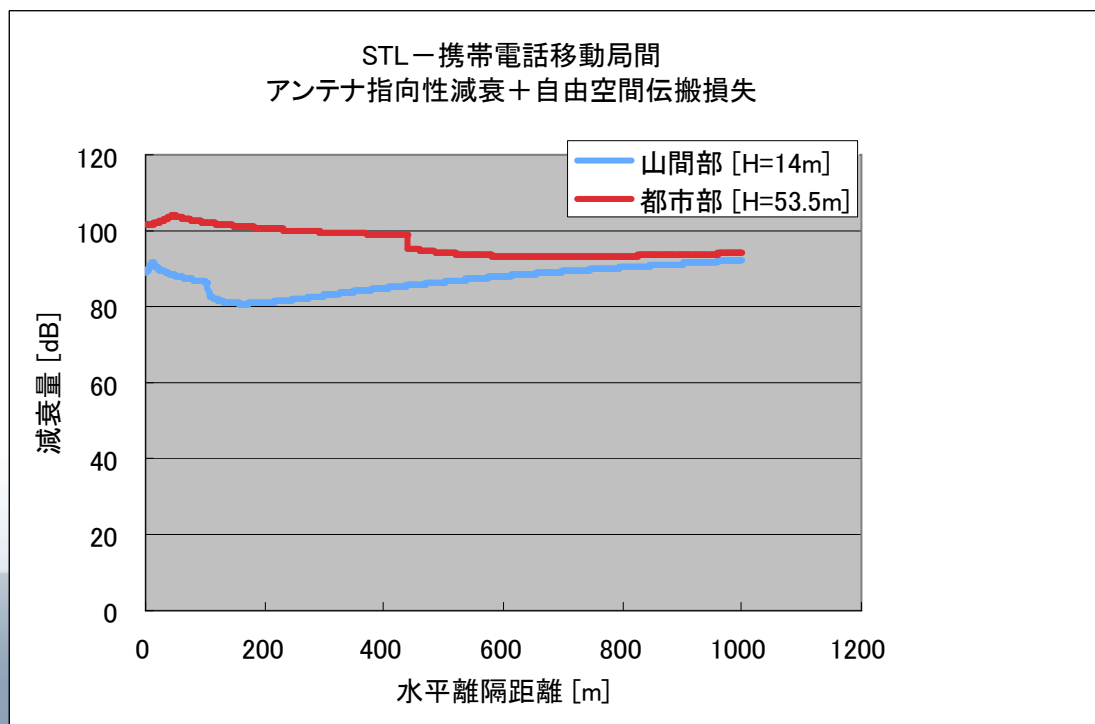
項番	項目	単位	LTE移動 (10 MHz BW)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dBi	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	1.5	1.5	
k	送受アンテナ高低差	m	12.5	52.0	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dBi	0.0	0.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	0.0	0.0	
q	人体吸収損失	dB	-8.0	-8.0	
r	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-110.8	-110.8	
s	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	117.9	115.5	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	113.1	110.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

② 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	15.1 dBm/MHz	-110.8 dBm/MHz	125.9 dB	179 m	80.8 dB	45.1 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	65.1 dBm	-56.0 dBm	121.1 dB	179 m	80.8 dB	40.3 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	12.7 dBm/MHz	-110.8 dBm/MHz	123.5 dB	682 m	93.2 dB	30.3 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	62.7 dBm	-56.0 dBm	118.7 dB	682 m	93.2 dB	25.5 dB



3.STL⇒小電力レピータ(陸上移動局対向器)への干渉調査

③

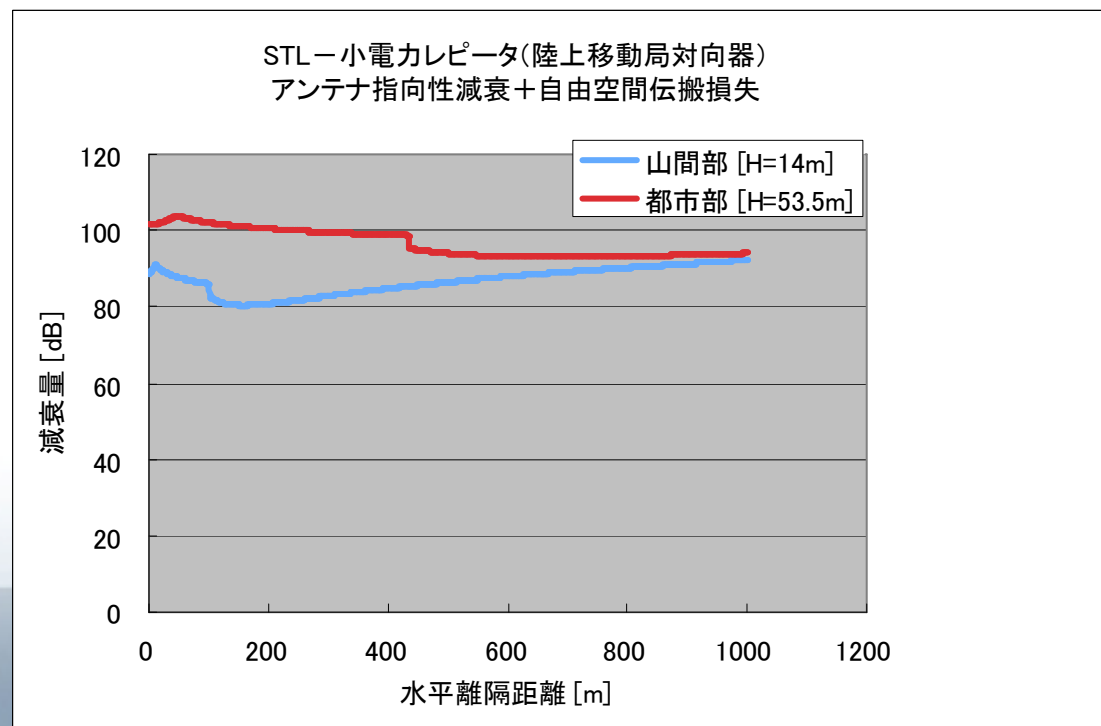
項番	項目	単位	小電力レピータ(陸上移動局対向器)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	2.0	2.0	
k	送受アンテナ高低差	m	12.0	51.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	0.0	0.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	0.0	0.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-118.9	-118.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-44.0	-44.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	134.0	131.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	109.1	106.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

③ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	15.1 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	134.0 dB	172 m	80.5 dB	53.5 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	65.1 dBm	-44.0 dBm	109.1 dB	172 m	80.5 dB	28.6 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	12.7 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	131.6 dB	680 m	93.1 dB	38.5 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	62.7 dBm	-44.0 dBm	106.7 dB	680 m	93.1 dB	13.6 dB



4.STL⇒小電力レピータ(基地局対向器・一体型)への干渉調査

④

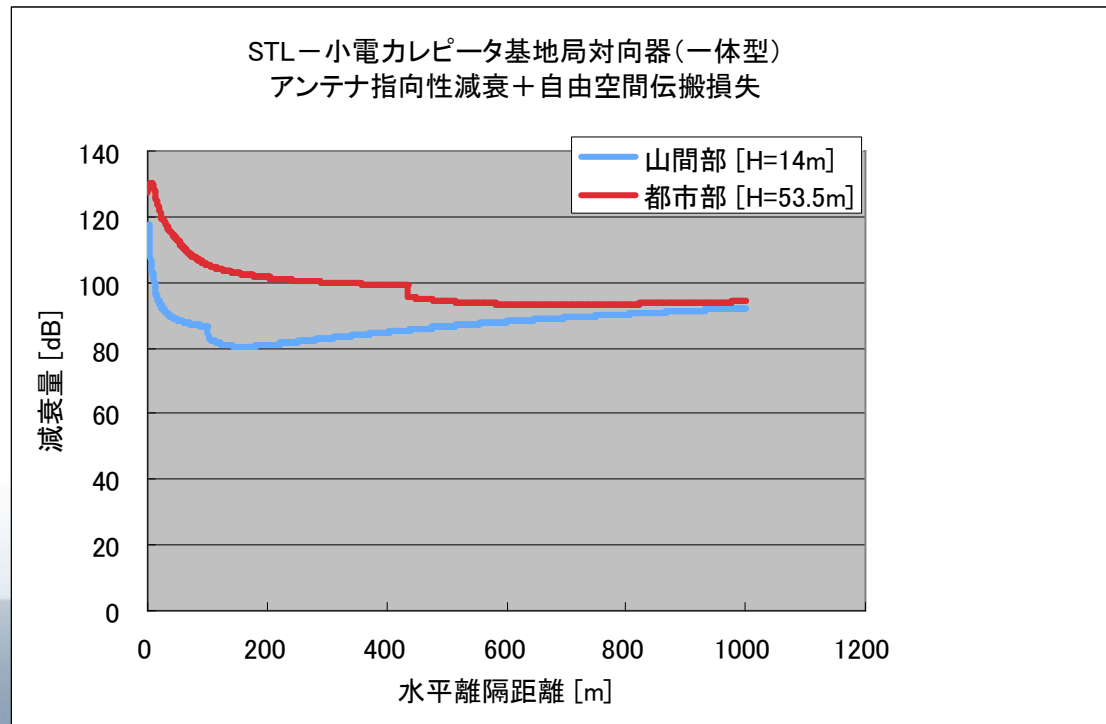
項番	項目	単位	小電力レピータ (基地局対向器・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	2.0	2.0	
k	送受アンテナ高低差	m	12.0	51.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	9.0	9.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	0.0	0.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-110.9	-110.9	
s	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	135.0	132.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	130.1	127.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

④ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	24.1 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	135.0 dB	172 m	80.5 dB	54.5 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	74.1 dBm	-56.0 dBm	130.1 dB	172 m	80.5 dB	49.6 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	21.7 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	132.6 dB	686 m	93.2 dB	39.4 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	71.7 dBm	-56.0 dBm	127.7 dB	686 m	93.2 dB	34.5 dB



5.STL⇒小電力レピータ(基地局対向器・分離型)への干渉調査

⑤

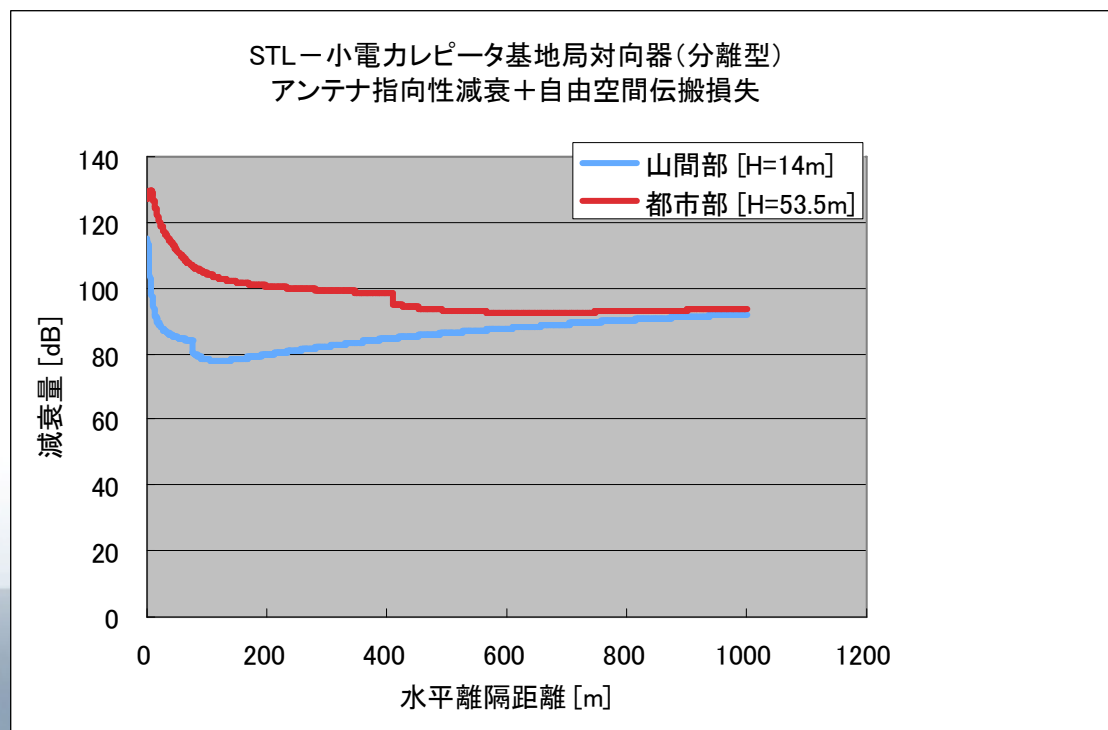
項番	項目	単位	小電力レピータ (基地局対向器・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	5.0	5.0	
k	送受アンテナ高低差	m	9.0	48.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	9.0	9.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-12.0	-12.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-110.9	-110.9	
s	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	123.0	120.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	118.1	115.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑤ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	12.1 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	123.0 dB	129 m	78.0 dB	45.0 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	62.1 dBm	-56.0 dBm	118.1 dB	129 m	78.0 dB	40.1 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	9.7 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	120.6 dB	647 m	92.6 dB	28.0 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	59.7 dBm	-56.0 dBm	115.7 dB	647 m	92.6 dB	23.1 dB



6.STL⇒陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋外エリア用)への干渉調査

⑥

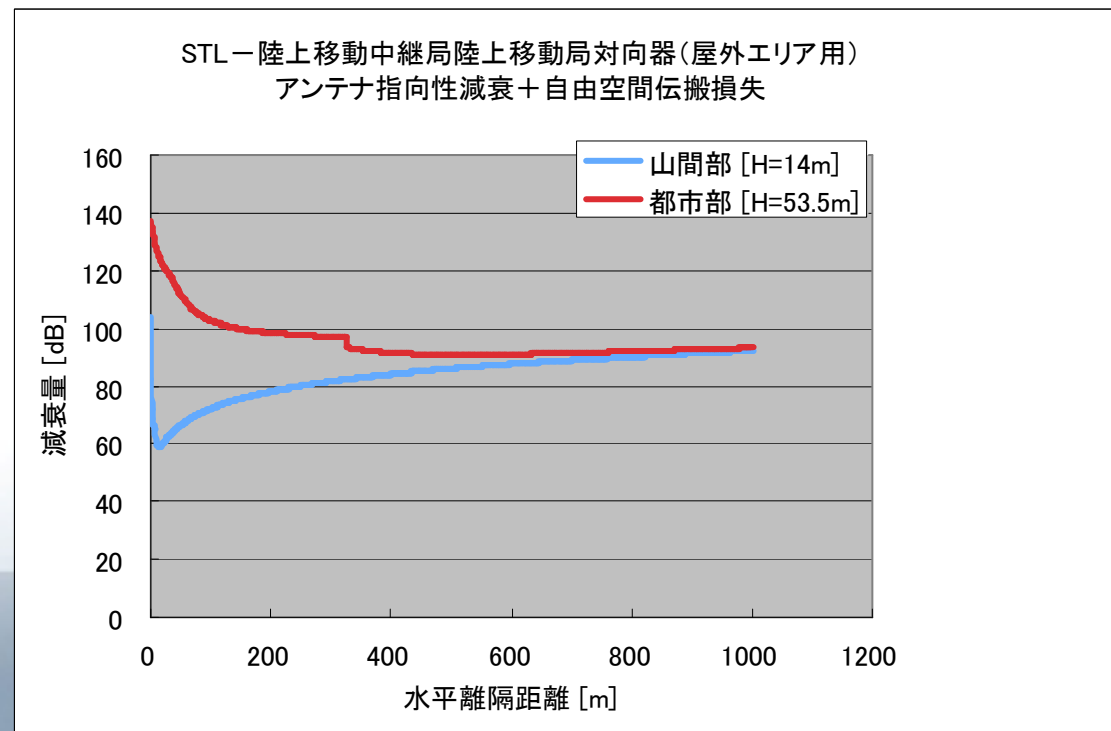
項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋外エリア用)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	15.0	15.0	
k	送受アンテナ高低差	m	1.0	38.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	11.0	11.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-8.0	-8.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-118.9	-118.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-44.0	-44.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	137.0	134.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	112.1	109.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑥ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	18.1 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	137.0 dB	14 m	58.8 dB	78.2 dB
帯域外干渉	① = b+++f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	68.1 dBm	-44.0 dBm	112.1 dB	14 m	58.8 dB	53.3 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	15.7 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	134.6 dB	515 m	90.8 dB	43.8 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	65.7 dBm	-44.0 dBm	109.7 dB	515 m	90.8 dB	18.9 dB



7.STL⇒陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・一体型)への干渉調査

⑦

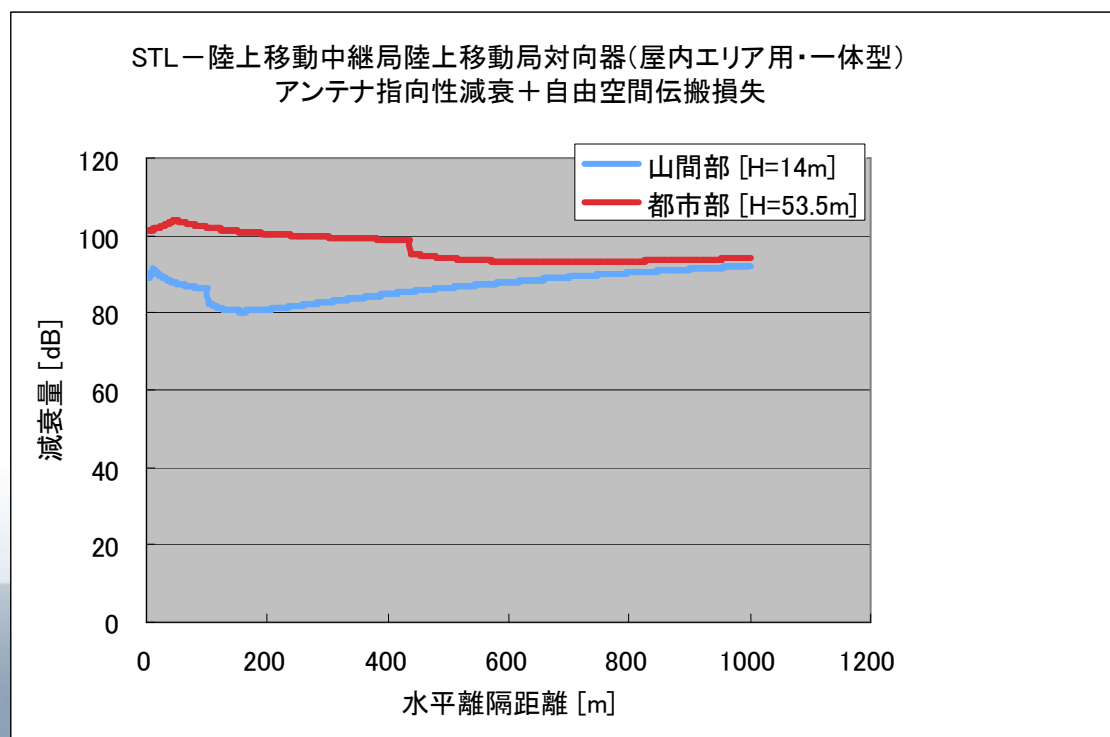
項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	2.0	2.0	
k	送受アンテナ高低差	m	12.0	51.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	0.0	0.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	0.0	0.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-118.9	-118.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-44.0	-44.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	134.0	131.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	109.1	106.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑦ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	15.1 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	134.0 dB	172 m	80.4 dB	53.6 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	65.1 dBm	-44.0 dBm	109.1 dB	172 m	80.4 dB	28.7 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	12.7 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	131.6 dB	682 m	93.1 dB	38.5 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	62.7 dBm	-44.0 dBm	106.7 dB	682 m	93.1 dB	13.6 dB



8.STL⇒陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・分離型)への干渉調査

⑧

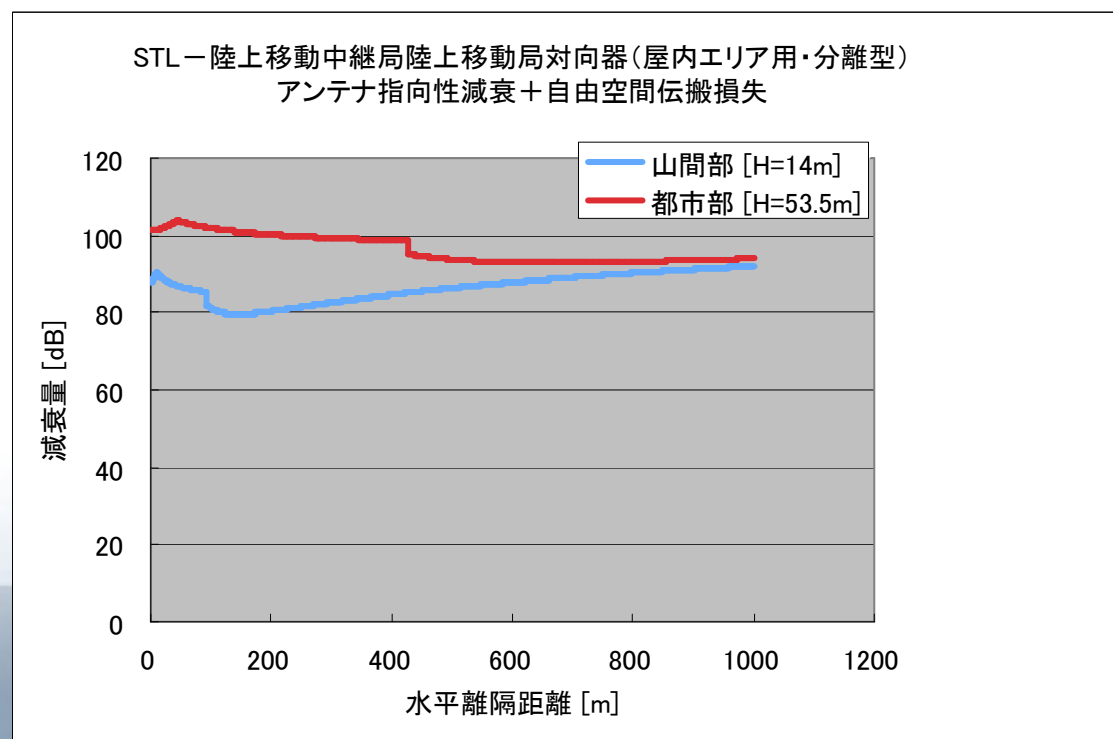
項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	3.0	3.0	
k	送受アンテナ高低差	m	11.0	50.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	0.0	0.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-10.0	-10.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-118.9	-118.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-44.0	-44.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	124.0	121.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	99.1	96.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑧ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	5.1 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	124.0 dB	157 m	79.6 dB	44.4 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	55.1 dBm	-44.0 dBm	99.1 dB	157 m	79.6 dB	19.5 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	2.7 dBm/MHz	-118.9 dBm/MHz	121.6 dB	665 m	92.9 dB	28.7 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	52.7 dBm	-44.0 dBm	96.7 dB	665 m	92.9 dB	3.8 dB



9.STL⇒陸上移動中継局(基地局対向器・屋外エリア用)への干渉調査

⑨

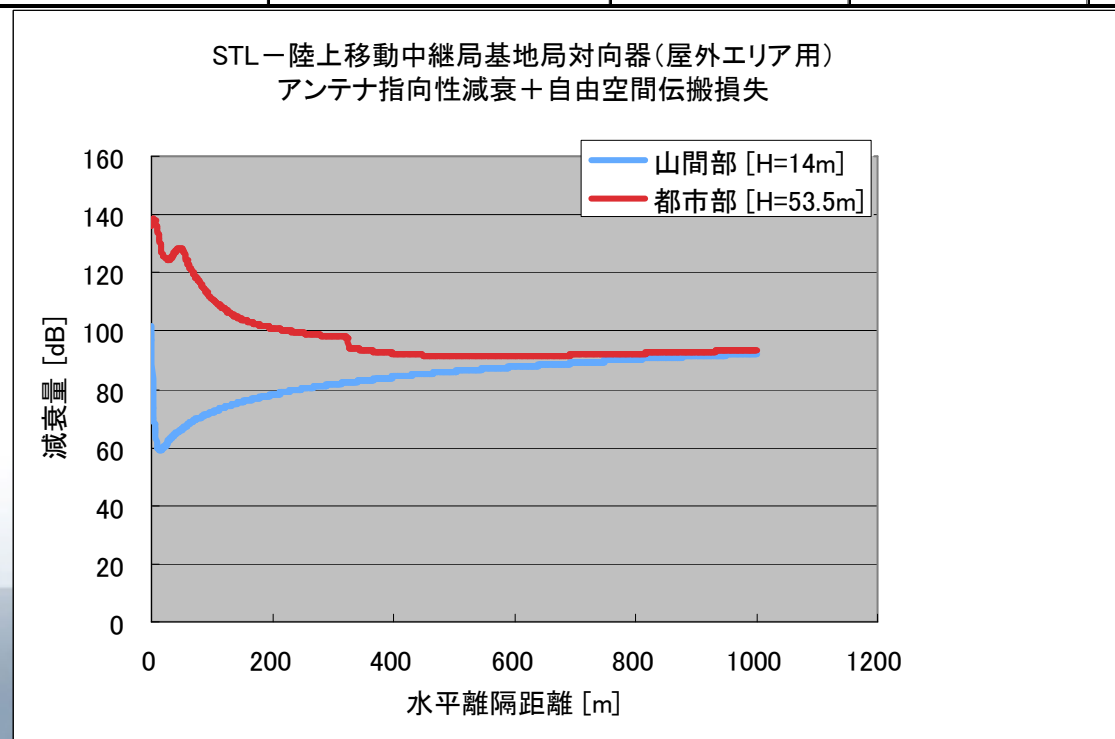
項番	項目	単位	陸上移動中継局(基地局対向器・屋外エリア用)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB _i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	15.0	15.0	
k	送受アンテナ高低差	m	1.0	38.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB _i	13.0	13.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-8.0	-8.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-110.9	-110.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	131.0	128.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	126.1	123.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑨ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	20.1 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	131.0 dB	14 m	58.9 dB	72.1 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	70.1 dBm	-56.0 dBm	126.1 dB	14 m	58.9 dB	67.2 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	17.7 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	128.6 dB	549 m	91.3 dB	37.3 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	67.7 dBm	-56.0 dBm	123.7 dB	549 m	91.3 dB	32.4 dB



10.STL⇒陸上移動中継局(基地局対向器・屋内エリア用・一体型)への干渉調査

⑩

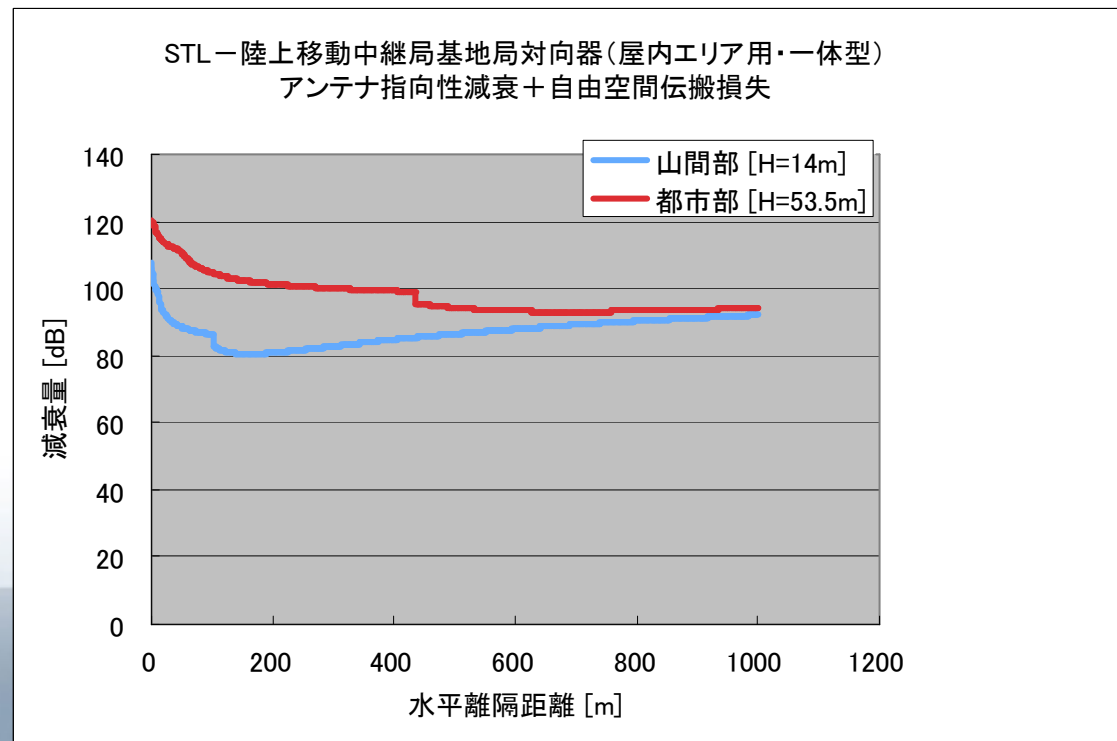
項番	項目	単位	陸上移動中継局(基地局対向器・ 屋内エリア用・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB _i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	2.0	2.0	
k	送受アンテナ高低差	m	12.0	51.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB _i	7.0	7.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	0.0	0.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-110.9	-110.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	133.0	130.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	128.1	125.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

⑩ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	22.1 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	133.0 dB	172 m	80.6 dB	52.4 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	72.1 dBm	-56.0 dBm	128.1 dB	172 m	80.6 dB	47.5 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	19.7 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	130.6 dB	690 m	93.2 dB	37.4 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	69.7 dBm	-56.0 dBm	125.7 dB	690 m	93.2 dB	32.5 dB



11.STL⇒陸上移動中継局(基地局対向器・屋内エリア用・分離型)への干渉調査

⑪

項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	958.6	958.6	
b	空中線電力	dBm/MHz	40.0	40.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-10.0	-10.0	
d	送信アンテナ高	m	14.0	53.5	
e	送信アンテナ海拔高	m	160.0	83.5	
f	送信アンテナ利得	dB i	27.2	27.2	
g	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
h	送信給電線損失	dB	-2.1	-4.5	
j	受信アンテナ高	m	10.0	10.0	
k	送受アンテナ高低差	m	4.0	43.5	$k = d - j $
m	受信アンテナ利得	dB i	7.0	7.0	
n	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
o	受信給電線損失	dB	-10.0	-10.0	
q	人体吸収損失	dB	0.0	0.0	
r	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-110.9	-110.9	
s	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-56.0	-56.0	
t	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	123.0	120.6	$t = c + f + h + m + o + q - r$
u	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	118.1	115.7	$u = b + f + h + m + o + q - s$

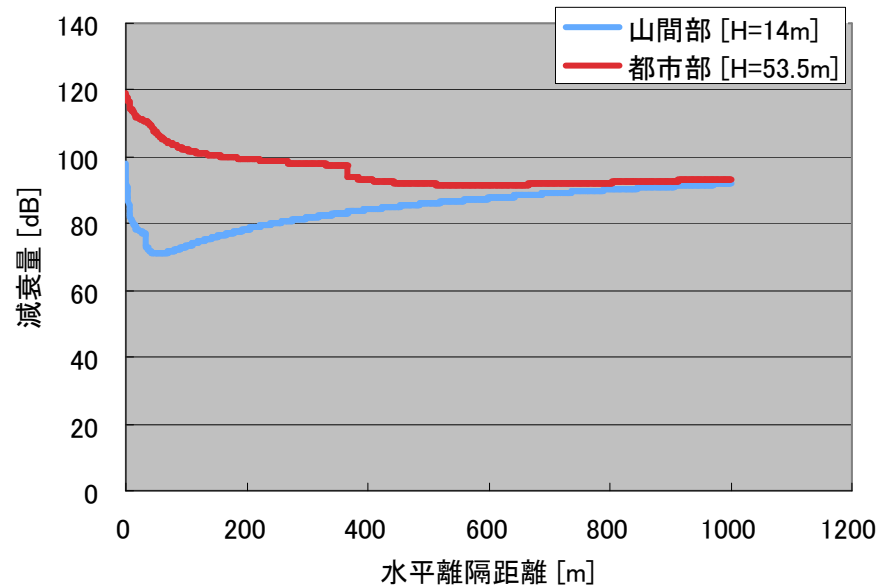
① 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	12.1 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	123.0 dB	57 m	71.1 dB	51.9 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	62.1 dBm	-56.0 dBm	118.1 dB	57 m	71.1 dB	47.0 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+f+h+m+o	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	9.7 dBm/MHz	-110.9 dBm/MHz	120.6 dB	580 m	91.7 dB	28.9 dB
帯域外干渉	① = b+f+h+m+o	② = s	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	59.7 dBm	-56.0 dBm	115.7 dB	580 m	91.7 dB	24.0 dB

STL－陸上移動中継局基地局対向器(屋内エリア用・分離型)
アンテナ指向性減衰＋自由空間伝搬損失



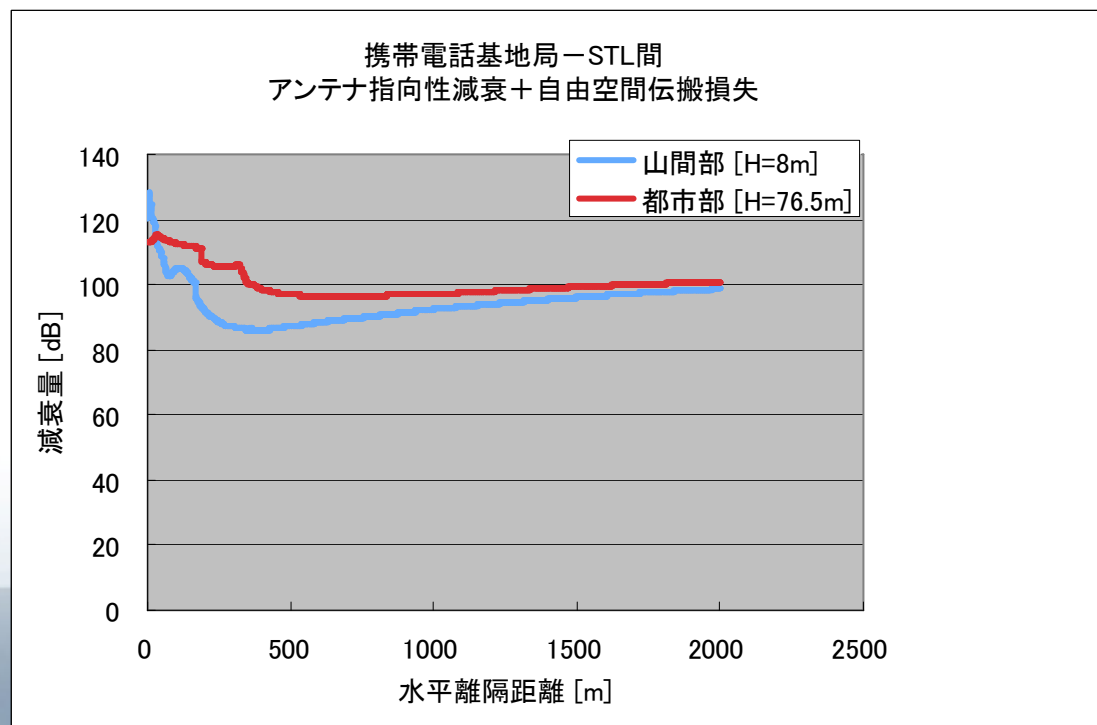
12. 携帯電話基地局⇒STLへの干渉調査

①

項番	項目	単位	LTE基地局 (10 MHz BW)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	36.0	36.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-8.2	-8.2	
d	送信アンテナ高	m	40.0	40.0	
e	送信アンテナ利得	dB i	14.0	14.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	-5.0	-5.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	32.0	36.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dB i	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	138.1	130.0	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	106.3	98.2	$t = b + e + g + k + n - r$

① 山間部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n 22.1 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 138.1 dB	261 m	84.7 dB	⑤ = ③ - ④ 53.4 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 66.3 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 106.3 dB	261 m	84.7 dB	⑤ = ③ - ④ 21.6 dB

都市部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n 14.0 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 130.0 dB	746 m	96.5 dB	⑤ = ③ - ④ 33.5 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 58.2 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 98.2 dB	746 m	96.5 dB	⑤ = ③ - ④ 1.7 dB



13. 携帯電話移動局⇒STLへの干渉調査結果

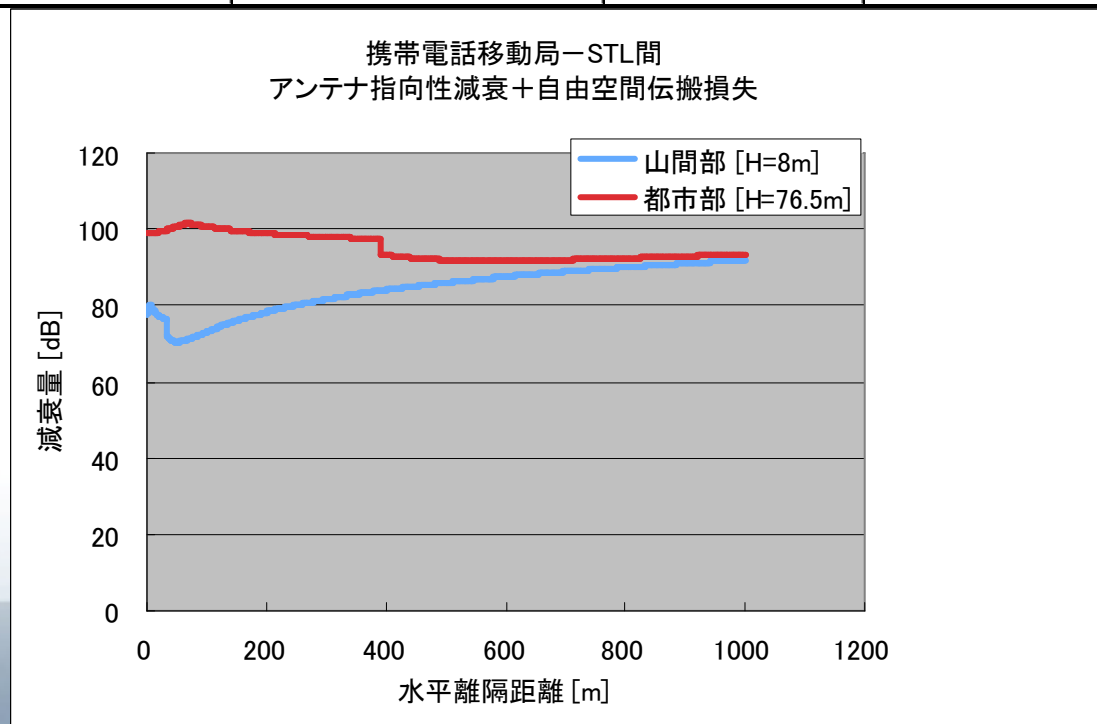
項番	項目	単位	LTE移動 (10 MHz BW)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.3	2.3	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-33.7	-33.7	
d	送信アンテナ高	m	1.5	1.5	
e	送信アンテナ利得	dBi	0.0	0.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	6.5	75.0	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	103.6	95.5	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	63.6	55.5	$t = b + e + g + k + n - r$

② 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -12.4 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 103.6 dB	53 m	70.7 dB	⑤ = ③ - ④ 32.9 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 23.6 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 63.6 dB	53 m	70.7 dB	⑤ = ③ - ④ -7.1 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -20.5 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 95.5 dB	589 m	91.7 dB	⑤ = ③ - ④ 3.8 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 15.5 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 55.5 dB	589 m	91.7 dB	⑤ = ③ - ④ -36.2 dB



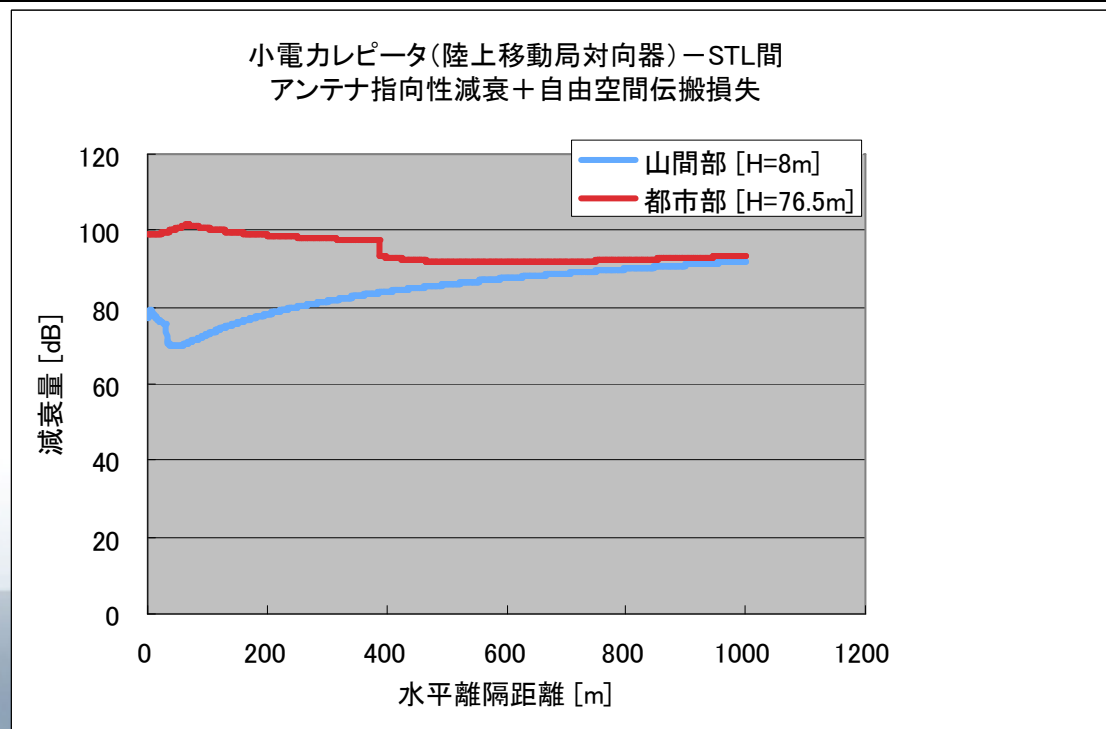
14.小電力レピータ(陸上移動局対向器)⇒STLへの干渉調査

③

項番	項目	単位	小電力レピータ(陸上移動局対向器)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.4	2.4	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-3.0	-3.0	
d	送信アンテナ高	m	2.0	2.0	
e	送信アンテナ利得	dB i	0.0	0.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	6.0	74.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dB i	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	134.3	126.2	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	63.7	55.6	$t = b + e + g + k + n - r$

③ 山間部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	18.3 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	134.3 dB	49 m	70.0 dB	64.3 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	23.7 dBm/MHz	-40.0 dBm	63.7 dB	49 m	70.0 dB	-6.3 dB

都市部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	10.2 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	126.2 dB	580 m	91.6 dB	34.6 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	15.6 dBm/MHz	-40.0 dBm	55.6 dB	580 m	91.6 dB	-36.0 dB



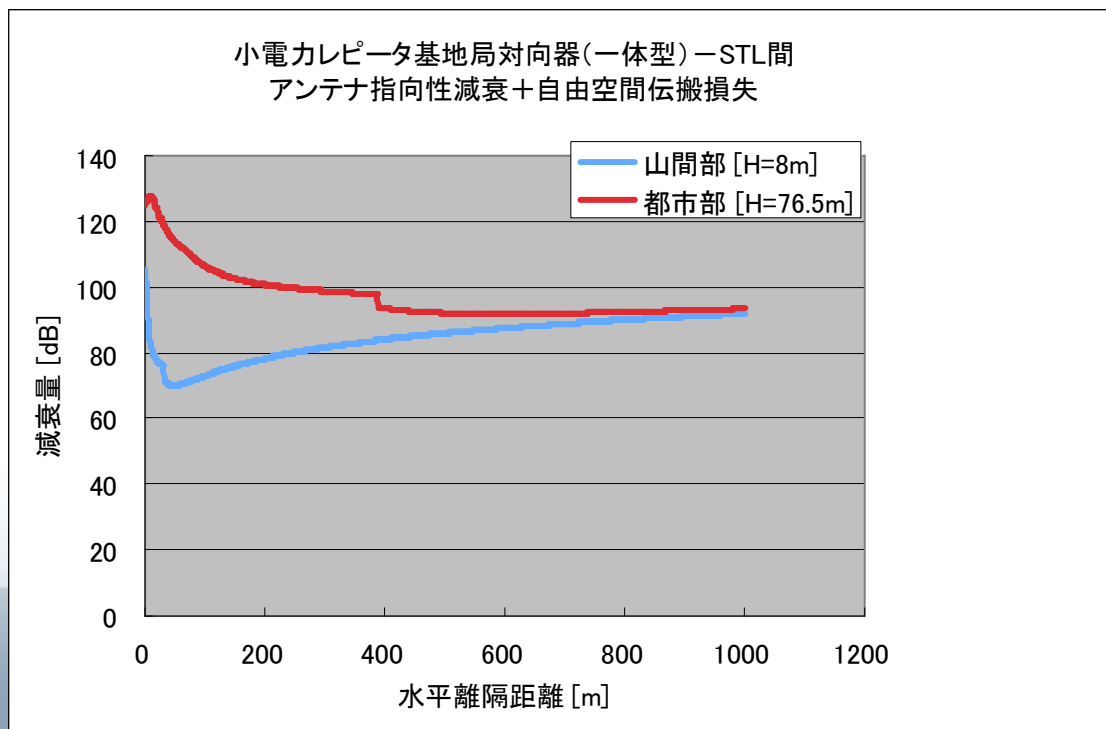
15.小電力レピータ(基地局対向器・一体型)⇒STLへの干渉調査

④

項番	項目	単位	小電力レピータ (基地局対向器・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	1.6	1.6	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-33.6	-33.6	
d	送信アンテナ高	m	2.0	2.0	
e	送信アンテナ利得	dBi	0.0	0.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	6.0	74.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	103.7	95.6	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	62.9	54.8	$t = b + e + g + k + n - r$

④ 山間部		①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉		① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		-12.3 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	103.7 dB	49 m	70.1 dB	33.6 dB
帯域外干渉		① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		22.9 dBm/MHz	-40.0 dBm	62.9 dB	49 m	70.1 dB	-7.2 dB

都市部		①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉		① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		-20.4 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	95.6 dB	595 m	91.9 dB	3.7 dB
帯域外干渉		① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		14.8 dBm/MHz	-40.0 dBm	54.8 dB	595 m	91.9 dB	-37.1 dB



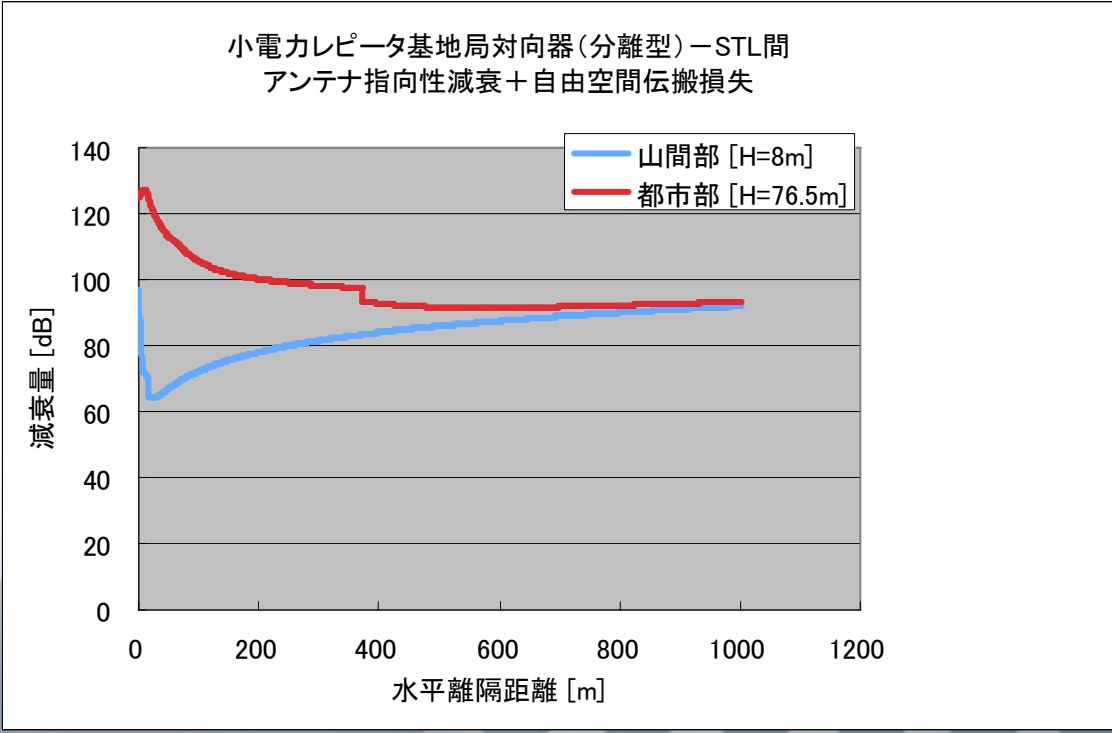
16.小電力レピータ(基地局対向器・分離型)⇒STLへの干渉調査

⑤

項番	項目	単位	小電力レピータ (基地局対向器・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	1.6	1.6	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-33.6	-33.6	
d	送信アンテナ高	m	5.0	5.0	
e	送信アンテナ利得	dBi	12.0	12.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	3.0	71.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル (不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル (感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失 (不要輻射)	dB	115.7	107.6	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失 (感度抑圧)	dB	74.9	66.8	$t = b + e + g + k + n - r$

⑤ 山間部		①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉		① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		-0.3 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	115.7 dB	24 m	64.1 dB	51.6 dB
帯域外干渉		① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		34.9 dBm/MHz	-40.0 dBm	74.9 dB	24 m	64.1 dB	10.8 dB

都市部		①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉		① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		-8.4 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	107.6 dB	571 m	91.5 dB	16.1 dB
帯域外干渉		① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
		26.8 dBm/MHz	-40.0 dBm	66.8 dB	571 m	91.5 dB	-24.7 dB



17.陸上移動中継局(移動局対向器・屋外エリア用)⇒STLへの干渉調査

⑥

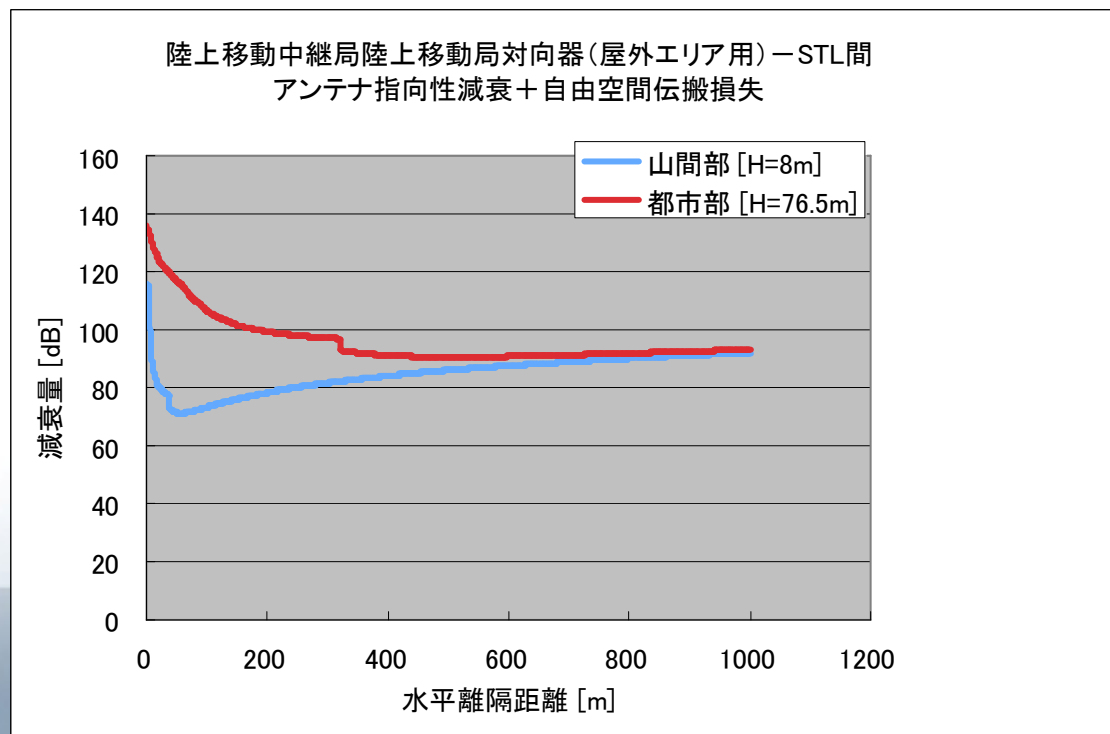
項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋外エリア用)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	3.8	3.8	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-40.4	-40.4	
d	送信アンテナ高	m	15.0	15.0	
e	送信アンテナ利得	dB i	11.0	11.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	-8.0	-8.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	7.0	61.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dB i	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	99.9	91.8	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	68.1	60.0	$t = b + e + g + k + n - r$

⑥ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-16.1 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	99.9 dB	50 m	71.7 dB	28.2 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	28.1 dBm/MHz	-40.0 dBm	68.1 dB	50 m	71.7 dB	-3.6 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-24.2 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	91.8 dB	509 m	90.5 dB	1.3 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	20.0 dBm/MHz	-40.0 dBm	60.0 dB	509 m	90.5 dB	-30.5 dB



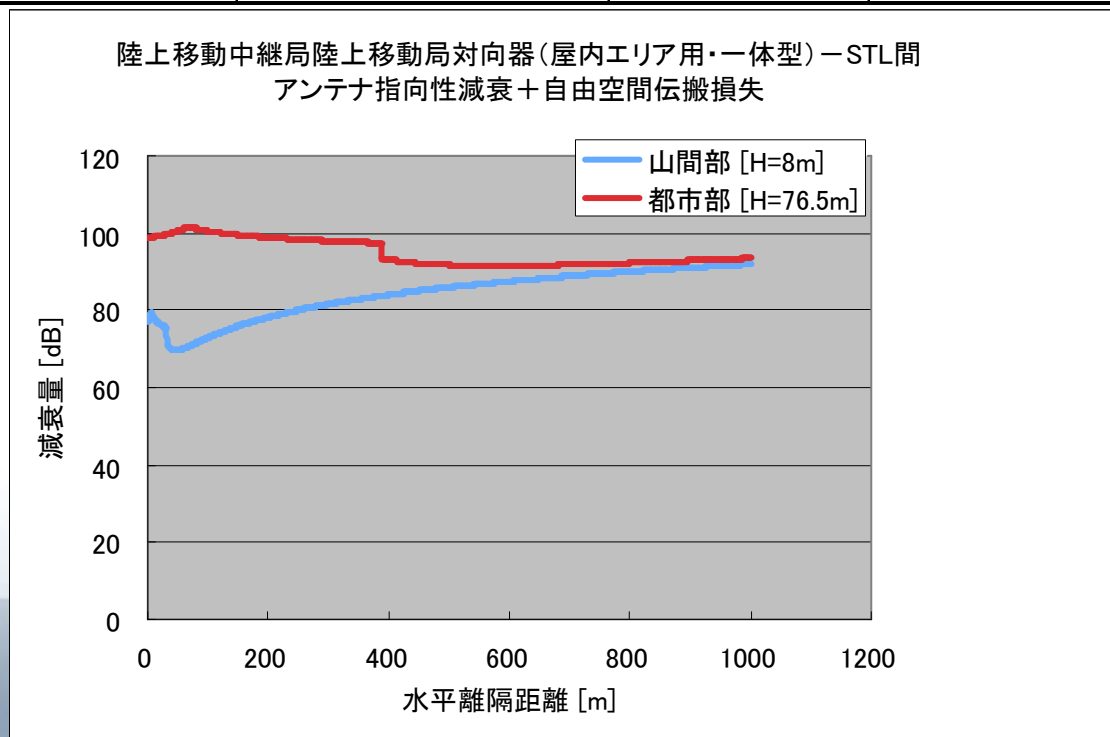
18.陸上移動中継局(移動局対向器・屋内エリア用・一体型)⇒STLへの干渉調査

⑦

項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.6	2.6	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-41.6	-41.6	
d	送信アンテナ高	m	2.0	2.0	
e	送信アンテナ利得	dBi	0.0	0.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	6.0	74.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	95.7	87.6	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	63.9	55.8	$t = b + e + g + k + n - r$

⑦ 山間部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	-20.3 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	95.7 dB	43 m	70.1 dB	25.6 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	23.9 dBm/MHz	-40.0 dBm	63.9 dB	43 m	70.1 dB	-6.2 dB

都市部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	-28.4 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	87.6 dB	580 m	91.6 dB	-4.0 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②			⑤ = ③ - ④
	15.8 dBm/MHz	-40.0 dBm	55.8 dB	580 m	91.6 dB	-35.8 dB



19.陸上移動中継局(移動局対向器・屋内エリア用・分離型)⇒STLへの干渉調査

⑧

項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.6	2.6	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-41.6	-41.6	
d	送信アンテナ高	m	3.0	3.0	
e	送信アンテナ利得	dBi	0.0	0.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	-10.0	-10.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	5.0	73.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	85.7	77.6	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	53.9	45.8	$t = b + e + g + k + n - r$

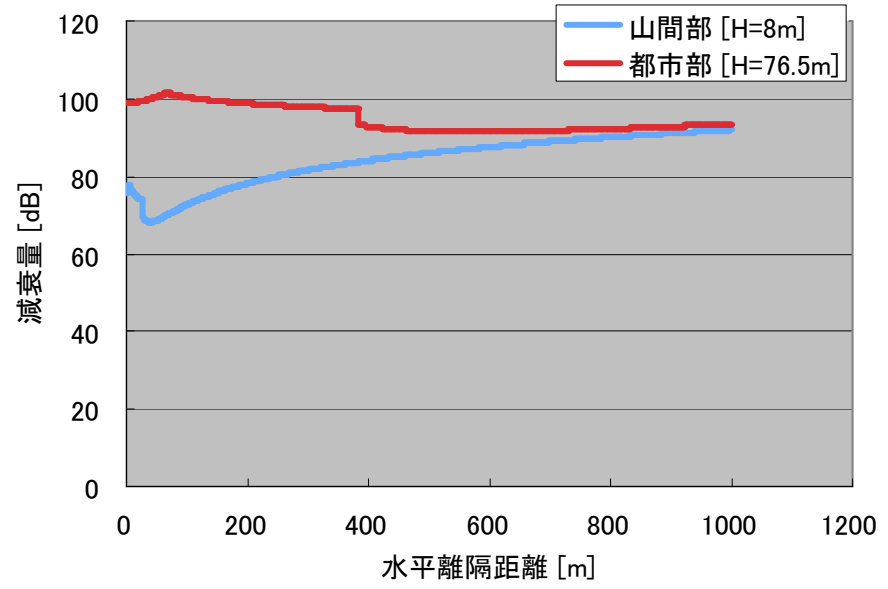
⑧ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-30.3 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	85.7 dB	36 m	68.5 dB	17.2 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	13.9 dBm/MHz	-40.0 dBm	53.9 dB	36 m	68.5 dB	-14.6 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-38.4 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	77.6 dB	572 m	91.5 dB	-13.9 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	5.8 dBm/MHz	-40.0 dBm	45.8 dB	572 m	91.5 dB	-45.7 dB

陸上移動中継局陸上移動局対向器(屋内エリア用・分離型)－STL間
アンテナ指向性減衰＋自由空間伝搬損失



20.陸上移動中継局(基地局対向器・屋外エリア用)⇒STLへの干渉調査

⑨

項番	項目	単位	陸上移動中継局(基地局対向器・屋外エリア用)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.3	2.3	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-32.9	-32.9	
d	送信アンテナ高	m	15.0	15.0	
e	送信アンテナ利得	dBi	13.0	13.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	-8.0	-8.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	7.0	61.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dBi	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	109.4	101.3	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	68.6	60.5	$t = b + e + g + k + n - r$

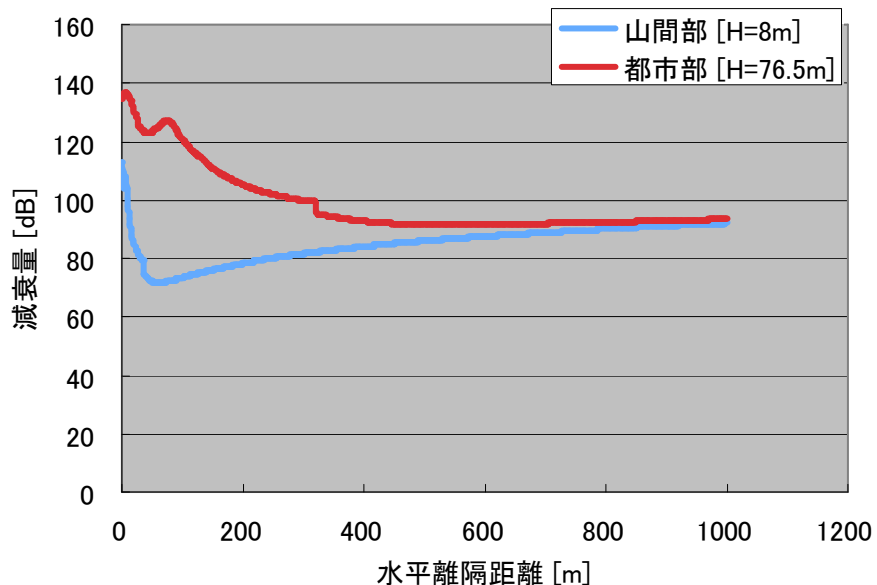
⑨ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -6.6 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 109.4 dB	67 m	72.1 dB	⑤ = ③ - ④ 37.3 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 28.6 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 68.6 dB	67 m	72.1 dB	⑤ = ③ - ④ -3.5 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -14.7 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 101.3 dB	540 m	91.6 dB	⑤ = ③ - ④ 9.7 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 20.5 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 60.5 dB	540 m	91.6 dB	⑤ = ③ - ④ -31.1 dB

陸上移動中継局基地局対向器(屋外エリア用)－STL間
アンテナ指向性減衰＋自由空間伝搬損失



21.陸上移動中継局(基地局対向器・屋内エリア用・一体型)⇒STLへの干渉調査

⑩

項番	項目	単位	陸上移動中継局(基地局対向器・ 屋内エリア用・一体型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.0	2.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-33.2	-33.2	
d	送信アンテナ高	m	2.0	2.0	
e	送信アンテナ利得	dB _i	7.0	7.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	0.0	0.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	6.0	74.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dB _i	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	111.1	103.0	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	70.3	62.2	$t = b + e + g + k + n - r$

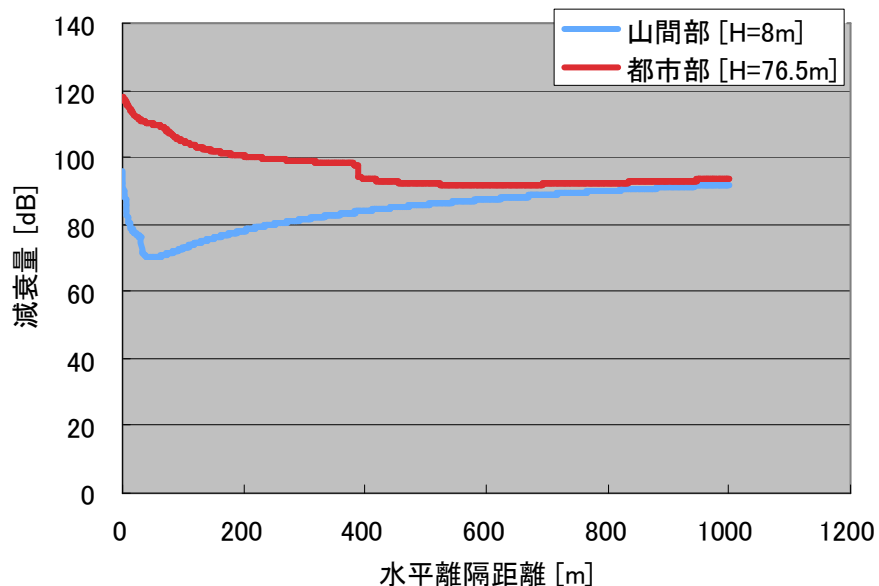
⑩ 山間部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-4.9 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	111.1 dB	49 m	70.5 dB	40.7 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	30.3 dBm/MHz	-40.0 dBm	70.3 dB	49 m	70.5 dB	-0.1 dB

都市部

	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n	② = q	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	-13.0 dBm/MHz	-116.0 dBm/MHz	103.0 dB	598 m	91.9 dB	11.1 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n	② = r	③ = ① - ②		(含 指向性減衰量)	⑤ = ③ - ④
	22.2 dBm/MHz	-40.0 dBm	62.2 dB	598 m	91.9 dB	-29.7 dB

陸上移動中継局基地局対向器(屋内エリア用・一体型)－STL間
アンテナ指向性減衰＋自由空間伝搬損失



22.陸上移動中継局(基地局対向器・屋内エリア用・分離型)⇒STLへの干渉調査

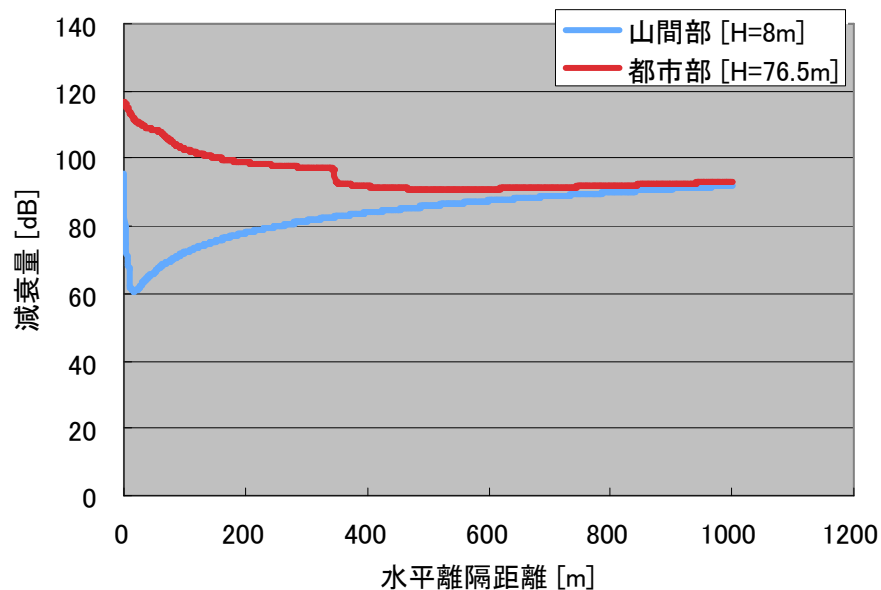
⑪

項番	項目	単位	陸上移動中継局(陸上移動局対向器・屋内エリア用・分離型)		備考
			山間部	都市部	
a	中心周波数	MHz	945.0	945.0	
b	空中線電力	dBm/MHz	2.0	2.0	
c	不要発射の強度	dBm/MHz	-33.2	-33.2	
d	送信アンテナ高	m	10.0	10.0	
e	送信アンテナ利得	dB _i	7.0	7.0	
f	送信アンテナ指向性減衰量	dB			
g	送信給電線損失	dB	-10.0	-10.0	
h	受信アンテナ高	m	8.0	76.5	
j	送受アンテナ高低差	m	2.0	66.5	$j = d - h $
k	受信アンテナ利得	dB _i	22.8	22.8	
m	受信アンテナ指向性減衰量	dB			
n	受信給電線損失	dB	-1.5	-9.6	
q	許容干渉レベル(不要輻射)	dBm/MHz	-116.0	-116.0	
r	許容干渉レベル(感度抑圧)	dBm	-40.0	-40.0	
s	所要自由空間伝搬損失(不要輻射)	dB	101.1	93.0	$s = c + e + g + k + n - q$
t	所要自由空間伝搬損失(感度抑圧)	dB	60.3	52.2	$t = b + e + g + k + n - r$

⑪ 山間部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -14.9 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 101.1 dB	16 m	60.9 dB	⑤ = ③ - ④ 40.2 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 20.3 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 60.3 dB	16 m	60.9 dB	⑤ = ③ - ④ -0.6 dB

都市部	①与干渉量	②被干渉許容量	③所要結合損	水平離隔距離	④水平離隔距離での結合損 (含 指向性減衰量)	⑤所要改善量
帯域内干渉	① = c+e+g+k+n -23.0 dBm/MHz	② = q -116.0 dBm/MHz	③ = ① - ② 93.0 dB	534 m	90.9 dB	⑤ = ③ - ④ 2.1 dB
帯域外干渉	① = b+e+g+k+n 12.2 dBm/MHz	② = r -40.0 dBm	③ = ① - ② 52.2 dB	534 m	90.9 dB	⑤ = ③ - ④ -38.7 dB

陸上移動中継局基地局対向器(屋内エリア用・分離型)－STL間
アンテナ指向性減衰＋自由空間伝搬損失



検討結果

STLから携帯電話システムへの干渉所要改善量並びに携帯電話システムからSTLへの干渉所要改善量を検討した結果はそれぞれプラスであり、共用には何らかの対策が必要である。

しかし、現在、全国に12局あるSTLは、平成27年度までに順次、他の周波数帯又は有線に移行することとしていることから、携帯電話事業者がサービスを開始する時期とSTLの移行時期を考慮した上で、携帯電話サービスを開始する地域において該当する放送事業者所属STL無線局と個別に干渉検討を行うこととし、その結果、調整が図られれば、携帯電話システムとSTLは共用可能と考えられる。



SoftBank